

2024年度
(第41回)

授業公開講座受講案内

神戸松蔭女子学院大学

目 次

■ ■ 概 要	2
■ ■ 申し込みのきまり	2
■ ■ 受講について	3
■ ■ 提供科目一覧表	4
■ ■ 授業内容・授業計画	7
■ ■ 時間割	55
■ ■ 注意事項	56
■ ■ 本学からのお知らせ	57
■ ■ 学内案内図	58
■ ■ 本学の位置及び交通機関	59

授業公開講座

■ 概要

神戸松蔭女子学院大学では種々の公開講座を開き、広く一般の方々によき学習の場を提供したいと願っております。その中で、本学の学生のために開講されている講義の一部を学生の受講に支障のない範囲で開放しているのがここにご紹介する「授業公開講座」です。受講者は学生と机を並べて共に学ぶこととなります。奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

● 受講資格

満18歳以上の女性(2024年4月1日現在)

● 授業期間

前期:4月8日(月)～8月5日(月)

試験および補講・補習日 7月23日(火)、24日(水)、25日(木)、30日(火)、31日(水)、8月1日(木)～3日(土)、5日(月)

後期:9月26日(木)～12月24日(火)、2025年1月6日(月)～2月8日(土)

試験および補講・補習日 2025年1月21日(火)、23日(木)、28日(火)～31日(金)、2月3日(月)～8日(土)

※ 期間中、学校行事、講師の都合等で休講となることもありますのでご了承ください。

休講予定: 11月15日(金)3～5限(大学祭準備のため)、11月16日(土)終日(大学祭)

12月6日(金)1～2限(クリスマス礼拝・祝会) ※事前にご確認ください。

※ 試験および補講・補習日は必ずしも授業が行われるわけではありません。

● 受講料

半期1科目/10,000円(本学関係者は5,000円)

※ 本学関係受講者とは、神戸松蔭女子学院大学在学生の母、及び神戸松蔭女子学院大学・短期大学部(短期大学・女専も含む)卒業生です。

■ 申し込みのきまり

● 申し込み期間

締切日:3月8日(金)[必着]

後期科目につきましても上記期間にお申込みください。

※ 締め切り後の到着分は無効となりますのでご注意ください。

● 申し込み方法

下記4点をご送付ください。

1) 授業公開講座申込書(ダウンロード可)

※ 太枠内を漏れなくご記入ください。

2) 証明写真(縦4cm×横3cm・カラー)

※ 証明写真以外は受け付けません。ご自分で撮影、プリントアウトしたものは不可。

※ 写真裏にお名前をご記入ください。

3) 授業公開講座受講生証 発行台紙(ダウンロード可)

※ 氏名欄にご記入の上、2)の証明写真をお貼りください。

4) 84円切手

送付先: 〒657-0015

神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1

神戸松蔭女子学院大学 教務課 授業公開講座係 宛

※ 個人情報は履修にかかわる事務手続以外に使用いたしません。

■ 受講について

● 受講者決定	募集人数を上回る申し込みがあった場合、受講者の決定は抽選により行います。その結果は3月末日までに封書（授業公開講座科目決定通知）でお知らせいたします。 正規学生の受講者が3名以下の場合には不開講となります。（5月上旬決定）
● 受講料納入	受講料は、「授業公開講座科目決定通知」に記載の振込先に振り込んでください。本学窓口での受け付けはできません。 1) 振込期間：4月1日(月)から4月5日(金)まで（期間厳守をお願いします。） 2) 後期開講科目についても同じ期間内に振り込みをお願いします。 3) 振り込まれた受講料はお返しできません。 正規学生の受講者が3名以下で不開講となった場合（5月上旬決定）は、受講料を返金いたします。 4) 期間中に手続きをされない場合は、受講取消とみなします。
● 受講生証の発行と手続き期間	本館3階教務課窓口にて次の 1) 2) をご持参ください。引き換えに授業公開講座受講生証、授業公開講座受講のてびきをお渡します。 1) 本人確認書類 運転免許証、パスポート等の氏名、生年月日、現住所が記載されているもの。 2) 受講料の領収書（銀行利用明細） 3) 手続期間 4月8日(月) から 4月12日(金)まで 9:00~17:00（日曜・祝日は取扱いません。） ※ 前期科目をお申し込みの方は 最初の授業時間前に教務課窓口にお越しください。 （システム登録の手続きに20分ほどかかります。）
● 授業に関する注意事項	(1) 各授業では学習支援システム「松蔭 manaba」を使用いたします。 (2) 遠隔授業を受講する場合はパソコン環境、通信環境を整えていただくことになります。 (3) 担当者等の都合により、 対面授業から遠隔授業に変更する可能性があります。 その場合は本学学生と同様「松蔭ポータル」や学習支援システム「松蔭 manaba」で連絡します。 (4) PC 必携の科目があります。シラバスにて確認してください。

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始日	募集人数
諸宗教とキリスト教	前期	2-3	木鎌 耕一郎	木曜	13:10~14:40	4月11日	5
現代社会とキリスト教	後期	2-3	木鎌 耕一郎	火曜	13:10~14:40	10月1日	5
社会心理学	前期	1-2	待田 昌二	木曜	14:50~16:20	4月11日	5
フランス語ⅡA	前期	2	打田 素之	水曜	9:00~10:30	4月10日	5
フランス語ⅡB	後期	2	打田 素之	水曜	9:00~10:30	10月2日	5
ビジネス中国語A	前期	2-4	古川 典代	火曜	10:40~12:10	4月9日	5
ビジネス中国語B	後期	2-4	古川 典代	火曜	10:40~12:10	10月1日	5
韓国語コミュニケーションA	前期	2-4	金 智英	木曜	13:10~14:40	4月11日	5
韓国語コミュニケーションB	後期	2-4	金 智英	木曜	13:10~14:40	9月26日	5
英語コミュニケーション概論A	前期	1	川中 紀子	火曜	14:50~16:20	4月9日	5
英語コミュニケーション概論B	後期	1	川中 紀子	火曜	14:50~16:20	10月1日	5
単語と文のしくみ	前期	3	西垣内 泰介	月曜	13:10~14:40	4月8日	3
英語コンピュータ特論A	前期	2	西垣内 泰介	火曜	13:10~14:40	4月9日	5
英語コンピュータ特論B	後期	2	西垣内 泰介	火曜	13:10~14:40	10月1日	5
コンピューティングA	前期	2	P. Spaelti	火曜	10:40~12:10	4月9日	3
コンピューティングB	後期	2	P. Spaelti	火曜	10:40~12:10	10月1日	3
アジア文化入門A	前期	2	金 智英	火曜	14:50~16:20	4月9日	5
アジア文化入門B	後期	2	古川 典代	火曜	14:50~16:20	10月1日	5

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始日	募集人数
中国語通訳翻訳演習	前期	3-4	古川 典代	金曜	13:10~14:40	4月12日	3
日本語教授法応用A	前期	3	田附 敏尚	金曜	13:10~14:40	4月12日	8
日本語教授法応用B	後期	3	田附 敏尚	金曜	13:10~14:40	9月27日	8
日本書道史	後期	1	丸山 果織	月曜	14:50~16:20	9月30日	8
演劇とパフォーマンスの歴史	前期	3	栴井 智英	月曜	10:40~12:10	4月8日	5
演劇と現代社会	後期	3	栴井 智英	月曜	10:40~12:10	9月30日	5
感情・人格心理学	前期	2-3	山本 竜也	金曜	13:10~14:40	4月12日	5
心理療法 A	前期	3-4	中村 博文	水曜	14:50~16:20	4月10日	5
心理療法 D	後期	3-4	小松 貴弘	金曜	13:10~14:40	9月27日	5
青年期の臨床心理学	後期	2-3	黒崎 優美	水曜	10:40~12:10	10月2日	5
成人期・老年期の臨床心理学	後期	3-4	中村 博文	月曜	9:00~10:30	9月30日	5
教育・学校心理学	後期	3-4	黒崎 優美	火曜	9:00~10:30	10月1日	5
対人コミュニケーション論	後期	2-3	待田 昌二	金曜	14:50~16:20	9月27日	5
ジェンダーの心理学	前期	3-4	土肥 伊都子	水曜	13:10~14:40	4月10日	5
被害者支援の心理学	後期	3-4	大和田 攝子	水曜	13:10~14:40	10月2日	5
食生活論	前期	1	川口 真規子	木曜	10:40~12:10	4月11日	5
神戸論	前期	2	江 弘毅	月曜	10:40~12:10	4月8日	5
家族文化論	前期	3	稲見 直子	木曜	10:40~12:10	4月11日	5
色彩学	前期	2	花田 美和子	金曜	9:00~10:30	4月12日	5

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講 区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始 日	募集 人数
化粧品心理学	後期	3	鳥居 さくら	木曜	10:40~12:10	9月26日	5
神戸の食と文化	前期	3	江 弘毅	木曜	9:00~10:30	4月11日	5
基礎生物学	前期	1	坂上 元祥	月曜	14:50~16:20	4月8日	5
ジェンダーとファッション	後期	4	戸田 賀志子	火曜	14:50~16:20	10月1日	5
デジタルデザイン論	後期	1	山本 浩司	火曜	13:10~14:40	10月1日	10
インテリア史	後期	1	米原 慶子	火曜	13:10~14:40	10月1日	5

諸宗教とキリスト教

前期 4/11(木)～

木鎌 耕一郎

木曜 13:10～14:40

授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・日本人の宗教観と日本宗教史の基礎について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・ユダヤ教とキリスト教の関係史について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性)
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明)</p> <p>第2回 宗教の起源(考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム)</p> <p>第3回 神話(神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判)</p> <p>第4回 儀礼(宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション)</p> <p>第5回 諸宗教の礼拝形式(1)(様々な礼拝、祈りの表現)</p> <p>第6回 諸宗教の礼拝形式(2)(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)</p> <p>第7回 日本人の宗教観(宗教統計調査、宗教意識の国際比較) —第1回まとめテスト</p> <p>第8回 日本の宗教概観(神道、仏教、神仏習合)</p> <p>第9回 近代日本の宗教政策(キリスト教の受容、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離論)</p> <p>第10回 日本文学に見るキリスト教の受容(芥川龍之介、遠藤周作)</p> <p>第11回 国教制度と政教分離(西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離)</p> <p>第12回 西洋におけるユダヤ教とキリスト教の関係史(エクレスシアとシナゴーク近代革命、ハスカラ)</p> <p>第13回 反ユダヤ主義の思想的根拠(無神論、フォイエールバッハ、マルクス、ニーチェ)</p> <p>第14回 現代におけるユダヤ教とキリスト教の対話(第二バチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世)</p> <p>第15回 宗教間対話の展開(講義の総括と展望) —第2回まとめテスト</p> <p>※試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習:シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。(学習時間:2時間) ・授業後学習:授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間:2時間)
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に2回のまとめテストを実施する。
履修上の注意	授業回数3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	石井研士『プレステップ宗教学(プレステップシリーズ08)』弘文堂 小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』(平凡社新書)

現代社会とキリスト教

後期 10/1(火)～

木鎌 耕一郎

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	現代社会の倫理的諸問題とキリスト教
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講義では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・西洋思想とキリスト教において「人間の尊厳」という概念がどのようなものとして理解されているかを知り、概略を説明することができる。(知識・理解)・現代社会の様々な倫理的課題とそれに対するキリスト教の関わりについて理解し、概略を説明することができる。(知識・理解)・現代社会の倫理的課題を理解することを通して、日常の暮らしの中にある倫理的課題を発見できるようになる。(汎用的技能)(態度・志向性)
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明) 第2回 西洋思想史における人間の尊厳 第3回 キリスト教と人間の尊厳 第4回 東洋的人間観とキリスト教 第5回 隣人の範囲設定と社会的正当化 第6回 優生思想 第7回 日本のハンセン病政策 —第1回まとめテスト 第8回 人工妊娠中絶と養子縁組制度 出生前診断 第9回 アメリカ社会と人工妊娠中絶 第10回 生殖補助医療の現在 第11回 尊厳死、安楽死 第12回 脳死と臓器移植 第13回 難民問題 第14回 環境問題 第15回 講義の総括と展望 —第2回まとめテスト ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習(準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none">・授業前準備学習: シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。グループワークの準備。(学習時間: 2時間)・授業後学習: 授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間: 2時間)
授業方法	基本的に講義形式だが、一部の授業でグループワークを行なうことがある。
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	浜口吉隆『キリスト教からみた生命と死の医療倫理』(東信堂) 長町裕司・高山貞美・永井敦子編『人間の尊厳を問い直す』(上智大学)

社会心理学

待田 昌二

前期 4/11(木)～

木曜 14:50～16:20

授業のテーマ	個人、対人、集団に関する社会心理学の知見、理論を習得する。
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした授業の概要 個人と社会の相互影響について理解すべく、自己、対人関係に関する社会心理学の知見、理論を学習する。
到達目標	(1)社会心理学的な視点から、人の社会的行動や心の状態を把握するための適切な方法について理解できる。【知識・理解】 (2)自らの生活の中で、社会心理学の知見を生かすことができる。【態度・志向性】
授業計画	第 1 回 社会的動物としての人間 第 2 回 社会的心理の多様性と普遍性 第 3 回 自己と他者 第 4 回 自尊感情、自己評価 第 5 回 自己開示、自己呈示 第 6 回 集団 第 7 回 同調と服従 第 8 回 ステレオタイプと偏見 第 9 回 攻撃 第 10 回 対人魅力、印象形成 第 11 回 援助 第 12 回 社会的ジレンマと協力 第 13 回 協力の促進と達成度確認試験 第 14 回 情報社会の心理学 第 15 回 消費社会の心理学 期末試験 *全ての授業回で [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間1時間） 授業後学習：松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間3時間）
授業方法	主に講義形式だが、manaba からの課題提出などを授業中に行う。<BYOD 対象科目>
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭 manaba で示す授業前学習、授業後学習を行うこと。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	松蔭 manaba において紹介する。

フランス語ⅡA

打田 素之

前期 4/10(水)～

水曜 9:00～10:30

授業のテーマ	フランス語文法の完成
授業の概要	1年次の文法の教科書を引き続き使用して、後半部分の前半を終える。
到達目標	【知識・理解】フランス語の関係代名詞、未来時制、過去時制が理解できる。 フランス語と日本語の文法的な違いが説明できる。 【汎用的技能】フランス語で書かれた文章を理解できる。
授業計画	第1回 関係代名詞 第2回 疑問代名詞 第3回 人称代名詞（直接目的） 第4回 人称代名詞（間接目的） 第5回 受動態（現在） 第6回 受動態（過去） 第7回 指示代名詞 第8回 強調構文 第9回 代名動詞（現在） 第10回 代名動詞（過去） 第11回 非人称構文 第12回 単純未来 第13回 前未来 第14回 中性代名詞 第15回 まとめとテスト *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業範囲の教科書を読み、新出単語を調べる。（2時間） 授業で配布されたプリントの問題や教科書の練習問題を解き、訳文を付ける。（2時間）
授業方法	講義：授業は以下の手順で進める。 【文法事項の解説】→【ドリル練習】→【問題の解答と解説】
履修上の注意	毎回辞書を持ってくること。 1/3以上の欠席は失格とする。
教科書	斎藤昌三『ル・フランセ』、白水社。ISBN978-4-560-06052-0 C3085
参考書	

フランス語ⅡB

後期 10/2(水)～

打田 素之

水曜 9:00～10:30

授業のテーマ	フランス語文法の完成
授業の概要	1年次の文法の教科書を引き続き使用して、後半部分の後半を終える。
到達目標	【知識・理解】フランス語の条件法、接続法が理解できる。 フランス語と日本語の文法的な違いが説明できる。 【汎用的技能】フランス語で書かれた文章を理解できる。
授業計画	第1回 前置詞を取る関係代名詞：lequel 他 第2回 前置詞を取る関係代名詞：qui, quoi 第3回 半過去（1）：活用 第4回 半過去（2）：用法 第5回 大過去：形と用法 第6回 条件法現在（1）：活用 第7回 条件法現在（2）：用法 第8回 条件法過去：形と用法 第9回 条件法と仮定法 第10回 現在分詞 第11回 ジェロンディフ 第12回 話法 第13回 接続法 第14回 〈法〉について 第15回 まとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業範囲の教科書を読み、新出単語を調べる。(2時間) 授業で配布されたプリントの問題や教科書の練習問題を解き、訳文を付ける。(2時間)
授業方法	講義 文法事項の解説→ドリル練習→問題の解答と解説。
履修上の注意	毎回辞書を持ってくること。 1/3以上の欠席は失格とする。
教科書	『ル・フランセ』新版、斉藤昌三著、白水社、ISBN978-4-560-06052-0
参考書	

ビジネス中国語A

前期 4/9(火)～

古川 典代

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	初級ビジネス中国語
授業の概要	経済面では切っても切れない関係にある隣国中国、ほとんどの業界で中国とは何らかの繋がりを持っている。そのビジネスパートナーとの通信や交流で不可欠なのが中国語。日常会話の中国語から、一歩進んだビジネスで使う中国語を理解し、活用できるように学習する。
到達目標	ビジネスで使う中国語を習得できる。【汎用的技能】 就活に役立たせることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 第一課 オフィスを訪ねる 第2回 [疑問詞+ma]、動詞の重ね型 第3回 [第二課 レストランに食事に行く 第4回 [形容詞+了]、選択疑問文 第5回 第三課 銀行にて 第6回 助動詞[想]の用法、結果補語[好] 第7回 第四課 商談をする 第8回 結果補語[到]、程度補語 第9回 第五課 宴会のセッティングをする 第10回 数量述語文、[把]構文 第11回 第六課 有給休暇を取る 第12回 助動詞[可以]の用法、[怪～了] 第13回 第七課 フライトを待つ 第14回 既習事項まとめ・期末試験(筆記・会話) 第15回 総括 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：ピンインで書かれている中国語単語および新出単語を調べておく。付属CDでテキスト本文を予習する。(学習時間2時間) 授業後学習：参考表現を覚える。付属CDを聞きながらシャドーイングする。(学習時2時間)
授業方法	演習：2回で1課進むペースで行う。ピンインを中国語に直して答え合わせをし、本文を朗読する。その後日本語に訳す。ペアになって会話練習をし、発表会をする。ここまでが1回目。 2回目は、文法事項を確認し、練習問題を行う。その後リスニングをして穴埋めをする。日本語訳をしながら内容を確認する。参考表現を音読し、5分間で覚える。小テストで参考表現を筆記する。このサイクルで各課の学習を繰り返していく。
履修上の注意	中国語検定試験4級相当以上の中国語力を有すること。三分の二以上の出席が必要。
教科書	『やさしいビジネス中国語』三瀧正道・金子伸一 朝日出版社 ISBN978-4-255-45136-7
参考書	『ビジネス中国語単語ベーシック 1000』古川典代監訳 三省堂 ISBN978-4-385-36547-3

ビジネス中国語B

後期 10/1(火)～

古川 典代

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	初級ビジネス中国語
授業の概要	経済面では切っても切れない関係にある隣国中国、ほとんどの業界で中国とは何らかの繋がりを持っている。そのビジネスパートナーとの通信や交流で不可欠なのが中国語。日常会話の中国語から、一歩進んだビジネスで使う中国語を理解し、活用できるように学習する。さらに余力があれば、中国語検定受験対策も行う。
到達目標	ビジネスで使う中国語を習得できる。【汎用的技能】 就活や社会に出てからも活用したり応用できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 第八課 アフターサービス 第2回 baの用法、V為～ 第3回 第九課 コンテナ輸送 第4回 [一～就...]の用法、[既～又...]の用法 第5回 第十課 待遇 第6回 [只有～才能...]の用法、[作為～]の用法 第7回 第十一課 病院にて 第8回 [先～然后...]の構文、[不是～而是...]の構文 第9回 第十二課 国際入札 第10回 「～だそうだ」の構文、「有」を伴う二音節動詞 第11回 第十三課 財務 第12回 様態補語と可能補語 第13回 ビジネス中国語会話「参考表現」まとめ 第14回 既習事項まとめ・期末試験（筆記・会話） 第15回 総括 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：ピンインで書かれている中国語単語および新出単語を調べておく。付属CDでテキスト本文をを予習する。(学習時間2時間) 授業後学習：参考表現を覚える。付属CDを聞きながらシャドーイングする。(学習時間2時間)
授業方法	演習：2回で1課進むペースで行う。ピンインを中国語に直して答え合わせをし、本文を朗読する。その後日本語に訳す。ペアになって会話練習をし、発表会をする。ここまでが1回目。 2回目は、文法事項を確認し、練習問題を行う。その後リスニングをして穴埋めをする。日本語訳をしながら内容を確認する。参考表現を音読し、5分間で覚える。小テストで参考表現を筆記する。このサイクルで各課の学習を繰り返していく。
履修上の注意	中国語検定試験4級相当以上の中国語力を有すること。三分の二以上の出席が必要。
教科書	『やさしいビジネス中国語』三瀧正道・金子伸一 朝日出版社 ISBN978-4-255-45136-7
参考書	『ビジネス中国語単語ベーシック1000』古川典代監訳 三省堂 ISBN978-4-385-36547-3

韓国語コミュニケーション A

金 智英

前期 4/11(木)~

木曜 13:10~14:40

授業のテーマ	韓国語の表現とコミュニケーション能力のレベルアップ
授業の概要	韓国語中級レベルに該当する人を対象とする。学校生活を中心とした様々なテーマの会話文を通して、語彙力・表現力の向上を目指す。また、学習表現の応用会話や自由会話を通して、意見や感想を自然な韓国語で伝えて授業の概要 解する能力を身につけていく。数回、授業中にペアまたはグループでスキットを作り、発表する。
到達目標	・自分の考えをまとめて韓国語で話せる【凡庸的技能】 ・特定のテーマについて韓国語で会話を持続できる【知識・理解】【凡庸的技能】
授業計画	第 1 回 オリエンテーションと自己紹介 第 2 回 目上の人や初対面の人に対する表現 第 3 回 聞き取り・会話練習①：尊敬語と謙譲語 第 4 回 理由を表す表現 第 5 回 聴解と会話練習②：理由の表現 第 6 回 文をつなげる表現 第 7 回 聴解と会話練習③：相手の意図を確認する 第 8 回 発表：ペアでスキット発表 第 9 回 許可・禁止の表現 第 10 回 聴解と会話練習④：動作や状態の持続を表す 第 11 回 言い切らない表現 第 12 回 聴解と会話練習⑤：意志を表す 第 13 回 推測の表現 第 14 回 聴解と会話練習⑥：未来のことについて話す 第 15 回 授業内容のまとめと期末試験 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	●授業前準備学習< 1 時間 > ・各回、予定されている教科書の会話本文を日本語に訳し、読み上げ練習を行う。 ・知らない単語を単語帳に整理しておく。 ●授業後学習< 1 時間 > ・授業で取り上げられた新出単語を各自で整理し、暗記する。 ・ペアで行った自由会話の内容と単語・使用表現等をノートに整理する。
授業方法	●講義 ・毎回、学習した表現を用いてペアやグループで会話練習を行う。 授業方法 ・数回、単語を中心とした小テストを行う（日程は授業で案内）。
履修上の注意	・出席が10回に満たない場合は単位取得不可となる。 ・韓国語中級レベルに該当する人を対象。
教科書	金仁姫・金智英『レベルアップ韓国語表現』朝日出版社 ISBN 978-4-255-55705-2
参考書	授業内で紹介

韓国語コミュニケーション B

後期 9/26(木)～

金 智英

木曜 13:10～14:40

授業のテーマ	韓国語の表現とコミュニケーション能力のレベルアップ
授業の概要	韓国語中級レベルに該当する人を対象とする。学校生活を中心とした様々なテーマの会話文を通して、語彙力・表現力の向上を目指す。また、学習表現の応用会話や自由会話を通して、意見や感想を自然な韓国語で伝えて理解する能力を身につけていく。数回、授業中にペアまたはグループでスキットを作り、発表する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を自然な韓国語で表すことができる【凡庸的技能】 ・韓国語で特定のテーマに関する会話を持続できる【知識・理解】【凡庸的技能】
授業計画	<p>第 1 回 韓国語コミュニケーション A の復習</p> <p>第 2 回 過去の経験に関する表現</p> <p>第 3 回 聞き取り・会話練習①：出来事の順番</p> <p>第 4 回 希望を表す表現</p> <p>第 5 回 聴解と会話練習②：好みを表す</p> <p>第 6 回 可能・不可能の表現</p> <p>第 7 回 聴解と会話練習③：推測を加えて話す</p> <p>第 8 回 発表：ペアでスキット発表</p> <p>第 9 回 過去の出来事を表す表現</p> <p>第 10 回 聴解と会話練習④：変化を表す</p> <p>第 11 回 聞いたことを伝える</p> <p>第 12 回 聴解と会話練習⑤：禁止の表現</p> <p>第 13 回 パンマルで話す</p> <p>第 14 回 聴解と会話練習⑥：後悔を表す表現</p> <p>第 15 回 授業内容のまとめと期末試験</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業前準備学習< 1 時間 > ・各回、予定されている教科書の会話本文を日本語に訳し、読み上げ練習を行う。 ・知らない単語を単語帳に整理しておく。 ●授業後学習< 1 時間 > ・授業で取り上げられた新出単語を各自で整理し、暗記する。 ・ペアと行った自由会話の内容と単語・使用表現等をノートに整理する。
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 ・毎回、学習した表現を用いてペアやグループで会話練習を行う。 <p>授業方法 ・数回、単語を中心とした小テストを行う（日程は授業で案内）。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が 10 回に満たない場合は単位取得不可となる。 ・韓国語中級レベルに該当する人を対象。
教科書	金仁姫・金智英『レベルアップ韓国語表現』朝日出版社 ISBN 978-4-255-55705-2
参考書	授業内で紹介

英語コミュニケーション概論A

前期 4/9(火)～

川中 紀子

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。 映画や音楽を教材として英語力を伸ばすこと。
授業の概要	授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための導入として、英語圏のポップソングを素材として音声変化を体系的に学ぶ。授業の後半で、映画を視聴しながら実際の会話に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語の4技能の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を学ぶ。
到達目標	・英語の音声変化の法則に習熟することができる（汎用的技能） ・リスニング・読解などの演習を通じて総合的な英語力（CEFR B2 レベル）を習得する。（知識・理解）
授業計画	第1回 英語の音声変化の法則・コミュニケーションのしくみ 第2回 映画視聴と英語・日本語字幕の活用について 第3回 TOEIC形式の問題演習① 第4回 音の同化：映画の会話演習 第5回 音の脱落：映画の会話演習 第6回 TOEIC形式の問題演習②・アメリカ英語の特徴（nt 縮約） 第7回 短縮形の音（can't, won't）の聴き取り 第8回 機能語の弱形と強形：映画の会話演習 第9回 音の連結・音声変化の複合：映画の会話演習 第10回 ディスカッションと復習 第11回 TOEIC形式の問題演習③ 第12回 受講生が選んだ映画の発表① 第13回 受講生が選んだ映画の発表② 第14回 TOEIC形式の問題演習④ 第15回 質疑応答・期末試験 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前準備学習：授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。（学習時間：2時間）
授業方法	講義：テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを随時行う。
履修上の注意	英語の音楽や映画が好きな人、また、音楽や映画を活用して英語力を伸ばしたい人、英語教育に役立てたい人の受講を歓迎する。
教科書	角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011年 978-4791930869
参考書	随時紹介する。

英語コミュニケーション概論B

後期 10/1(火)～

川中 紀子

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。 映画や音楽を教材として英語力を伸ばすこと。
授業の概要	授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための導入として、英語圏のポップソングを素材として音声変化を体系的に学ぶ。授業の後半で、映画を視聴しながら実際の会話に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語の4技能の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を学ぶ。
到達目標	・英語の音声変化の法則に習熟する。(汎用的技能) ・ディスカッション・読解などの演習を通じて総合的な英語力(CEFR B2 レベル)を養成。(知識・理解)
授業計画	第1回 英語の音声変化の法則・コミュニケーションのしくみの復習 第2回 映画の視聴と字幕の利用・アメリカ英語の特徴② 第3回 TOEIC形式の問題演習⑤ 第4回 助動詞の短縮形の音①、映画の会話演習 第5回 音楽・映画を活用した英語学習法・教育法 第6回 TOEIC形式の問題演習⑥、助動詞の動詞の短縮形の音② 第7回 前置詞や接続詞の弱形の発音、映画の会話演習 第8回 ディスカッションと復習 第9回 音の脱落②(破裂音)、映画の会話演習 第10回 ~ing形の発音、映画の会話演習 第11回 TOEIC形式の問題演習⑦ 第12回 受講生が選んだ映画の発表③ 第13回 受講生が選んだ映画の発表④ 第14回 まとめと復習 第15回 質疑応答・期末試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。(学習時間：2時間)
授業方法	講義：テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを各章ごとに行う。
履修上の注意	英語の音楽や映画が好きな人、また、音楽や映画を活用して英語力を伸ばしたい人、英語教育に役立てたい人の受講を歓迎する。
教科書	角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011年 978-4791930869
参考書	随時紹介する。

単語と文のしくみ

西垣内 泰介

前期 4/8(月)～

月曜 13:10～14:40

授業のテーマ	動詞を中心とした単語と文のしくみ
授業の概要	<p>英語に限らず、文は「動詞」を中心として、「しくみ」を持って成り立つものです。英語の場合、動詞の後にどのような要素が現れるか、個々の動詞について知っていることは文を読解していく上でもっとも重要なことです。この授業では、インターネット上で読むことができる文章を題材として、「文のしくみ」を考えながら読む方法を示していきます。</p> <p>さらに、動詞と関連する派生語について調べ、単語にも「しくみ」やその法則性があることを見ます。これを理解することは、語彙力を高めるだけでなく、文を理解したり使用したりする上で大きな力となります。また、インターネットのコーパスや電子辞書の利用法を説明し、英語に関わる情報リテラシーを高めます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">•英語の文が「しくみ」を持ったものであることを理解し、それによって読解力、作文力を高める【知識・理解】•単語にも「しくみ」がある。これを理解することで語彙力を高めるだけでなく文の理解と使用にも役立つ。【知識・理解】•オンライン辞書を使用することで情報リテラシーを高める。【汎用的技能】
授業計画	<p>第1回 授業の概要説明</p> <p>第2回 自動詞と他動詞について break, increase</p> <p>第3回 「存在」を表す文</p> <p>第4回 「与える」 give</p> <p>第5回 「与える」 provide, supply</p> <p>第6回 「奪う」 steal vs. rob, deprive</p> <p>第7回 「説得する」 persuade</p> <p>第8回 「説得する」 persuade, convince のさまざまな用法</p> <p>第9回 「説得する」「やめさせる」 talk の用法</p> <p>第10回 「禁止」 prohibit, forbid, etc.</p> <p>第11回 「せめる」 blame, criticize, etc.</p> <p>第12回 動詞と派生名詞 depend vs. dependence</p> <p>第13回 接頭辞と接尾辞</p> <p>第14回 Out- のついた動詞</p> <p>第15回 授業の復習 定期試験</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>日常的に辞書を授業中に指示する方法で用いること。</p> <p>前の授業で説明を聞きながら読んだ英文を必ず授業後に自力で読み、理解を確認すること。</p> <p>毎回の授業で前回の授業内容にもとづくテストを行うので、復習をしっかりすること。</p> <p>授業外学習の所要時間については『履修ガイド』を参照してください。[4時間]</p>
授業方法	<p>課題の英文についてその読解の方法を講義のかたちで説明し、受講者がその方法に従って日本語に訳す作業を行う。</p> <p>また課題の英文の内容にもとづくテストを行う。</p> <p>英文和訳の結果およびテストを manaba で提出する。</p>
履修上の注意	ちょっと難しい英文を読む力を養いたいという意欲のある人に受講して欲しいと思います。
教科書	使用しない。
参考書	講義で適宜紹介する。

英語コンピュータ特論A

前期 4/9(火)～

西垣内 泰介

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	コンピュータとインターネットを使って英語を深く知ろう
授業の概要	みなさんは電子辞書やインターネット上のオンライン辞書を使っていますか。電子辞書やオンライン辞書は、紙の辞書にはない性質があるのです。たとえば、英語には strawberry, blueberry, cranberry など berry で終わる単語がたくさんあります。普通の紙の辞書では berry で終わる単語がどのぐらいあるのかを調べることはできません。しかし、電子辞書・オンライン辞書では、検索のし方を工夫することで berry で終わる単語をならべて表示することができるのです。この授業では、オンライン辞書の使い方を学び、それにもとづいて英語のさまざまな側面、特に単語のしくみについて深く知ることが目標にします。
到達目標	英語のオンライン辞書を活用することができる。[知識・理解] 英語の単語のしくみについての基礎知識を持つことができる。[知識・理解] インターネットを日常の学習に活用することができる。[汎用性技能] 情報を的確に判断・理解し、適切に処理する技能を身につけている。[汎用性技能] 広い視野に基づいた冷静かつ客観的な判断力を背景として、高度なコミュニケーション能力を用いた、説得力のある情報発信ができる。[汎用性技能]
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2 回 英語辞書の使い方---辞書のどこに何が書いてあるか (1) 辞書は「意味」だけじゃない 第 3 回 英語辞書の使い方---辞書のどこに何が書いてあるか (2) 例文を活用しよう 第 4 回 Oxford English Dictionary を使って見る (1) Weblio との比較 第 5 回 Oxford English Dictionary を使って見る (2) さまざまな検索のしかた 第 6 回 語のしくみと電子辞書・オンライン辞書 (1) 第 7 回 語のしくみと電子辞書・オンライン辞書 (2) 複合語について 第 8 回 語のしくみと電子辞書・オンライン辞書 (3) 複合語と検索方法 第 9 回 語のしくみと接頭辞・接尾辞 (1) 接頭辞 第 10 回 語のしくみと接頭辞・接尾辞 (1) 接尾辞 第 11 回 接頭辞と接尾辞の違い (1) 第 12 回 接頭辞と接尾辞の違い (2) 意味と品詞 第 13 回 接尾辞のはたらき (1) 名詞を作る接尾辞 第 14 回 接尾辞のはたらき (2) 動詞を作る接尾辞 第 15 回 授業のまとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外おける学習 (準備学習の内容)	授業前: 電子辞書・オンライン辞書を日常の学習で活用する。インターネットを日常の学習だけでなく生活の中で知的に活用する。[2時間] 授業後: 授業で取り上げ学習した内容およびテストを復習し、授業で学習した内容に基づいて自分で語彙の検索を行ってみる。[2時間] 毎回の授業で前回の授業内容にもとづくテストを行うので、復習をしっかりすること。 準備学習に要する時間については履修ガイドを参考にしてください。
授業方法	授業で学習する内容についてレクチャーし、参考となるインターネット上の英文サイトをていねいに読む。レクチャーによる説明と参考文献にもとづいて受講者自身が辞書の検索を行う。
履修上の注意	コンピュータを英語学習に役立てることに関心のある人に受講して欲しいです。
教科書	使用しない
参考書	

英語コンピュータ特論 B

後期 10/1(火)～

西垣内 泰介

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	コンピュータとインターネットを使って英語を深く知ろう
授業の概要	<p>前期の「英語コンピュータ特論A」では英語の単語のしくみについてオンライン辞書を活用して深く知ることを試みました。後期のこの授業では英語の文章についてコンピュータとインターネットを使って深く知る方法を探ります。</p> <p>まず、Google Translate (Google 翻訳) について考えます。みなさんに言いたいことは、Google 翻訳は絶対に使ってはダメです。機械翻訳は、まだまだ本当の意味で実用化されるものではありません。この授業ではいくつかの日本語の文をGoogle 翻訳にかけてみて、その結果を検討します。これを見れば、みなさんはGoogle 翻訳がいかに信頼できないものであるか納得してくれると思います。次に「コーパス」(corpus) というものについて学習します。コーパスはいわば文章データベースで、ある単語を入力するとその単語を含む、さまざまな分野で実際に使われている文のリストが表示されるものです。辞書にも例文が表示されますが、辞書の例文は辞書制作者が作った文であることが多いのですが、コーパスは作られたものではない、実際に使われている文が示されているのです。そう言われても何に使えるのかイメージできないかも知れません。この授業ではコーパスを使うことで英語の単語や文のいろいろな側面を自分の目で検証することができる ということを学びます。</p>
到達目標	<p>英語のオンライン辞書を活用することができる。 [知識・理解]</p> <p>英語の単語のしくみについての基礎知識を持つことができる。 [知識・理解]</p> <p>インターネットを日常の学習に活用することができる。 [汎用性技能]</p> <p>情報を的確に判断・理解し、適切に処理する技能を身につけている。 [汎用性技能]</p> <p>広い視野に基づいた冷静かつ客観的な判断力を背景として、高度なコミュニケーション能力を用いた、説得力のある情報発信ができる。 [汎用性技能]</p>
授業計画	<p>第 1 回 授業の内容紹介</p> <p>第 2 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (1) ・ Google 翻訳を実際に使ってみることで、Google 翻訳がどういうところで間違うのかを検証していきます。</p> <p>第 3 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (2) なぜダメか</p> <p>第 4 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (3) 誤訳の実例</p> <p>第 5 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (4) なぜ誤訳するか</p> <p>第 6 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (5) Google 翻訳のまとめ</p> <p>第 7 回 コーパスの設定と基本的な使い方</p> <p>第 8 回 コーパスと「新しい英語の単語」(1)</p> <p>第 9 回 コーパスと「新しい英語の単語」(2) どのように使われているか</p> <p>第 10 回 コーパスと品詞による検索(1)</p> <p>第 11 回 コーパスと品詞による検索(2) 名詞と動詞</p> <p>第 12 回 コーパスと collocate (1) ・ コーパスの重要な機能のひとつが collocate です。ある単語がどのような単語と一緒に使われるかを調べることができます。この機能を用いることで英語の文や文法のさまざまな側面を調べることができます。</p> <p>第 13 回 コーパスと collocate (2) 動詞と目的語</p> <p>第 14 回 コーパスと collocate (3) 否定表現</p> <p>第 15 回 授業のまとめ</p> <p>※試験は希望者のみ受験。</p>

授業外おける学習 (準備学習の内容)	授業前: 電子辞書・オンライン辞書およびコーパスを日常の学習で活用する。インターネットを日常の学習だけでなく生活の中で知的に活用する。[2時間] 授業後: 授業で取り上げ学習した内容およびテストを復習し、授業で学習した内容に基づいて自分で辞書およびコーパスを用いて語彙や文の検索を行ってみる。[2時間] 毎回の授業で前回の授業内容にもとづくテストを行うので、復習をしっかりとすること。 準備学習に要する時間については履修ガイドを参考にしてください。
授業方法	授業で学習する内容についてレクチャーし、参考となるインターネット上の英文サイトをていねいに読む。 レクチャーによる説明と参考文献にもとづいて受講者自身が Google 翻訳の翻訳結果を評価したり、コーパスを用いた検索を行う。 授業の最後にはその日の復習としてテストを行う。
履修上の注意	コンピュータを学習に役立てることに興味のある人に受講して欲しいです。
教科書	使用しない
参考書	

コンピューティングA

P. Spaelti

前期 4/9(火)～

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	インターネットがわかる。ウェブデザインの基本。
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってインターネット上の情報にアクセスする方法を学びます。このために、まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム (OS) そしてコンピュータ・ネットワークについて理解を深めることにします。それからCGなどのデジタルメディアを使ったウェブページの作成法、スタイルシートを使った情報の効果的な表示法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れます。授業では基本的概念の理解と実践の両方に重きを置く予定です。
到達目標	テキストエディタ、グラフィックス・音声・動画ファイルなどを扱うさまざまなソフトウェアに使い慣れる。データのマークアップ、HTML、CSS、そして初歩のウェブプログラミングをマスターする。【汎用的技能】
授業計画	第1回 コンピュータの基礎 第2回 ファイルエディターとファイルの種類 第3回 インターネットはなんですか？ 第4回 ブラウザーの種類 第5回 マークアップ言語：HTML 第6回 ウェブサイトの計画 第7回 スタイルシート CSS 第8回 イメージの種類 第9回 画像処理ソフトでイメージの変種 第10回 ユーザインターフェース 第11回 スクリプト 第12回 マルチメディア 第13回 プロジェクト作成・計画 第14回 プロジェクト作成・実現 第15回 プロジェクト作成・完成 ※試験は希望者のみ受験。
授業外おける学習 (準備学習の内容)	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。学習時間「180分以上」。
授業方法	演習。コンピュータを触りながら、概念を実際に自分で試してみる。
履修上の注意	積極的な授業参加
教科書	講義で適宜配布する。
参考書	

コンピューティングB

P. Spaelti

後期 10/1(火)～

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	コンピュータを使ったデータ分析。
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってデータを収集し、組み立て、分析する方法を学びます。まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム (OS)、ハードウェアとソフトウェアの違いなどについて理解を深めます。それからデータ入力、いろいろなフォーマットでの保存法や暗号化法、表計算ソフトやデータベースを使ったデータ分析法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れることにします。
到達目標	データ入力と分析のためにさまざまなツールをマスターすること。データベース言語 (SQL) をマスターすること。【汎用的技能】
授業計画	第1回 データベースはなんですか？ 第2回 表計算ソフトを使う 第3回 データの種類 第4回 グラフを作る 第5回 データ分析法 第6回 データ構造 第7回 データベースソフトを使う 第8回 データベース言語：SQL 第9回 データベースの作成 第10回 データベースからデータを取り出す 第11回 セキュリティとプライバシーの問題 第12回 ウェブの接続 第13回 プロジェクト作成・計画 第14回 プロジェクト作成・実現 第15回 プロジェクト作成・完成 ※試験は希望者のみ受験。
授業外おける学習 (準備学習の内容)	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。学習時間「180分以上」
授業方法	演習。コンピュータを触りながら、概念を実際に自分で試してみる。
履修上の注意	積極的な授業参加
教科書	講義で適宜配布する。
参考書	

アジア文化入門A

金 智英

前期 4/9(火)～

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	隣の国、韓国を知る
授業の概要	日本と同じ東アジア文化圏に属する韓国の歴史、文化、社会に関する基礎知識を学ぶ。そのうえで、現代韓国の社会と文化について、いくつかの項目を中心に学習する。また、日韓の交流の歴史、韓流や日流などを取り上げながら、異文化と自文化の捉え方について考え、理解を深めていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">●韓国の歴史、文化、社会に関する基礎知識を知る【知識・理解】●日韓の社会や文化の共通点や相違点を理解する【知識・理解】●自身が属する文化と他の文化を客観的に捉えることができる【態度・指向性】
授業計画	第1回 東アジア文化圏 第2回 朝鮮半島の歴史と文化概観 第3回 朝鮮半島の有名な人物とその時代背景 第4回 韓国語の文字「ハングル」について 第5回 影響し合う日韓の言葉 第6回 現代韓国の教育事情と学生生活 第7回 韓国の食文化ー伝統から現代までー 第8回 アジア発祥の宗教と信仰 第9回 韓国文学から見る韓国社会 第10回 韓国の映画・ドラマから見る韓国社会 第11回 韓国の美術作品と画家紹介 第12回 女性と韓国社会 第13回 韓国における日本文化の禁止と開放 第14回 韓流と日流 第15回 授業内容のまとめ ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none">●授業前準備学習<2時間><ul style="list-style-type: none">・日ごろからニュースなどを通して韓国に関連する情報を積極的に収集しておく・前もって授業内容を確認し、関連する用語、事柄、記事などを調べておく●授業後学習<2時間><ul style="list-style-type: none">・授業内容を各自の授業ノートにまとめる・学習内容の中で興味を持った事についてさらに詳しく調べるなどして、最後のレポートに備える
授業方法	<ul style="list-style-type: none">●講義<ul style="list-style-type: none">・毎回、講義内容について意見交換を行うので、積極的に参加してほしい・毎回、コメントシートに感想や質問を提出してもらい、次の時間に共有・回答する
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は単位取得不可となる。
教科書	プリント配布
参考書	舘野 哲編『韓国の暮らしと文化を知るための70章』明石書店 チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジョン』筑摩書房 司馬 遼太郎『一街道をゆく2ー韓のくに紀行』朝日文庫

アジア文化入門B

古川 典代

後期 10/1(火)～

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	隣国中国の文化を学ぶ
授業の概要	近くて遠い国、隣国中国の文化を学ぶ。 また、日本と中国を文化や習慣面から対照することにより、両者の差異と共通点について考える。 日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本および日本語を客観的に捉える視点を育成する。
到達目標	中国の特性を認識し、日中間の類似性と相違性を把握できる。【知識・理解】 日本と中国との異同の中から歴史的関係性に興味を持つことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 中国・中国語概況 第2回 日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響 第3回 日中同形異義語 第4回 映画で見る近代中国1（唐山大地震前半） 第5回 映画で見る近代中国2（唐山大地震後半） 第6回 日中カバーソング事情 第7回 日本語と中国語の文法の違い 第8回 アルファベットや数字によるコミュニケーション 第9回 日本と中国の文化・風習の違い 第10回 中国の少数民族 第11回 中国茶の成り立ちと種類（テイスティング） 第12回 中華料理の構成と名称 第13回 日中通過儀礼の違い 第14回 日中祝祭日比較 第15回 総括 ※試験は希望者のみ受験。
授業外おける学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアンテナを張り巡らせておく。各回のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。(学習時間2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭における解答と照らし合わせる。日頃から問題意識を持ち、情報収集する。(学習時2時間)
授業方法	演習：毎回のテーマに合わせ、可能な限り日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。 コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。コメントシートに書かれた質問は、次週の冒頭で回答する。最後にこの授業で習得したことを中心に、興味を持ったテーマに関するレポートを800字以上1000字程度で作成して提出する。
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。
教科書	指定教科書は無し。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する

中国語通訳翻訳演習

前期 4/12(金)～

古川 典代

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	中国語通訳・翻訳
授業の概要	通訳に必要な資質、道具、手法の理解。通訳トレーニングメソッドの理解と習得。簡単な通訳や翻訳の演習でスキルを身に付けるべく、理論学修とともに通訳、翻訳演習を繰り返し行う。中国語での自己紹介を流暢にできるようになるまで特訓し、就活等に活用できるようにする。
到達目標	通訳トレーニングメソッドがわかる。【知識・理解】 簡単な通訳や翻訳ができる。【汎用的技能】 日本の通訳事情を理解できる。【態度・志向性】
授業計画	<p>第 1 回 中国語通訳についての概要、必要ツール紹介</p> <p>第 2 回 通訳トレーニングメソッドの紹介、演習/クイックレスポンス① 通訳時によく出てくる成語・常用表現①</p> <p>第 3 回 クイックレスポンス、ラギング/クイックレスポンス② 通訳時によく出てくる成語・常用表現②</p> <p>第 4 回 シャドーイング/クイックレスポンス③ 通訳時によく出てくる成語・常用表現③</p> <p>第 5 回 ノートテイキング/クイックレスポンス④ 通訳時によく出てくる成語・常用表現④</p> <p>第 6 回 サマリー/クイックレスポンス⑤ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑤</p> <p>第 7 回 小テスト/クイックレスポンス⑥ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑥</p> <p>第 8 回 逐次通訳演習①日常会話/クイックレスポンス⑦ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑦</p> <p>第 9 回 逐次通訳演習②環境問題/クイックレスポンス⑧ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑧</p> <p>第 10 回 翻訳演習①中国の文化/クイックレスポンス⑨ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑨</p> <p>第 11 回 翻訳演習②式辞挨拶/クイックレスポンス⑩ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑩</p> <p>第 12 回 字幕翻訳について/クイックレスポンス⑪ 通訳時によく出てくる成語・常用表現小テスト</p> <p>第 13 回 同時通訳・ウィスパリングについて/クイックレスポンス⑫</p> <p>第 14 回 既習事項まとめ・クイックレスポンス小テスト</p> <p>第 15 回 中国語での自己紹介発表会</p> <p>※試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>授業前準備学習：クイックレスポンスに使用する単語20個を調べておく。通訳トレーニングメソッドを確認しておく。(学習時間2時間)</p> <p>授業後学習：クイックレスポンスに使った単語を復習する。授業で行った演習を復習する。声に出して音読し、日本語訳も確認する。(学習時間2時間)</p>
授業方法	演習：毎回冒頭で「クイックレスポンス用単語」20題を答え合わせし、5分で暗記する。そのうえで口頭でクイックレスポンスの小テストを行う。続いて、通訳時によく出てくる成語・常用表現の答え合わせをし、演習する。その後、通訳トレーニングメソッドを活用した演習を行う。主として中→日方向での通訳のパフォーマンスを繰り返す訓練する。ノートテイキング、サマリーな

	どの訓練も折々に取り入れて行う。最終回には中国語での自己紹介を発表する。
履修上の注意	真摯な態度で取り組んでください。三分の二以上の出席が必要。
教科書	毎回プリントを用意します。
参考書	『中国語シャドーイング入門』DHC 古川典代著 ISBN4-88724-391-X 『たくさんキクヨム中国語』コスモピア 古川典代他著

日本語教授法応用A

前期 4/12(金)～

田附 敏尚

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。 外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 はじめに～言語学習・言語環境とは～ 第2回 自動詞・他動詞1（自動詞） 第3回 自動詞・他動詞2（他動詞） 第4回 テンス～一般言語学的視点から～ 第5回 アスペクト 第6回 モダリティ 第7回 ヴォイス1（受身1）～対照言語学的視点から～ 第8回 ヴォイス1（受身2） 第9回 ヴォイス2（使役） 第10回 ヴォイス3（可能） 第11回 授受表現1（あげる、もらう、くれる） 第12回 授受表現2（～てあげる、～てもらう、～てくれる） 第13回 助詞 第14回 まとめと到達度確認テスト 第15回 振り返り *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習 <学習時間2時間> 授業後学習：授業で学んだことのとまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやること。<学習時間2時間>
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。 授業後に事後学習として manaba で授業の内容を確認する小テストを行う。
履修上の注意	日本語の文法、あるいは「国語」の口語文法についての基礎的な知識は持っているものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5 以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922
参考書	

日本語教授法応用B

後期 9/27(金)～

田附 敏尚

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修授業の1つである。 外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。日本語文法を分析することから、よく似た文法の使い分けや、学習者にするときの注意点などを考える。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。
到達目標	1. 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 2. よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 はじめに 前期の復習 第2回 自動詞・他動詞1 (自動詞) 第3回 自動詞・他動詞2 (他動詞) 第4回 テンス 第5回 アスペクト 第6回 モダリティ 第7回 ヴォイス1 (受身1) 第8回 ヴォイス1 (受身2) 第9回 ヴォイス2 (使役) 第10回 ヴォイス3 (可能) 第11回 授受表現1 (あげる、もらう、くれる) 第12回 授受表現2 (～てあげる、～てもらう、～てくれる) 第13回 助詞 第14回 まとめと到達度確認テスト 第15回 振り返り *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習<学習時間2時間> 授業後学習：授業で学んだことのとまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやること。<学習時間2時間>
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。 授業後に事後学習として manaba で授業の内容を確認する小テストを行う。
履修上の注意	日本語の文法、あるいは「国語」の口語文法についての基礎的な知識は持っているものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性もある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922
参考書	

日本書道史

丸山 果織

後期 9/30(月)～

月曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。
到達目標	1. 日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解することができる。【知識・理解】 2. 日本の書について、各時代の社会的、文化的背景について理解したうえで、自分の言葉で論じることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 ガイダンス、日本書道史について 第2回 漢字の伝来以前と漢字の受容 第3回 奈良時代①（中国の書） 第4回 奈良時代②（天平文化・万葉仮名） 第5回 平安時代前期（唐様・三筆とその周辺） 第6回 平安時代中期～後期①（和様・三蹟とその周辺） 第7回 平安時代中期～後期②（仮名の誕生から完成） 第8回 平安時代中期～後期③（仮名と古今和歌集、料紙） 第9回 平安時代末期～鎌倉時代（俊成・定家、平家納経） 第10回 室町時代（墨跡） 第11回 安土桃山～江戸初期（寛永の三筆とその周辺） 第12回 江戸時代～明治初期（御家流、文人の書） 第13回 明治・大正時代（楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論） 第14回 昭和初期・戦後現代 第15回 今日の書の展望（ゲストスピーカーによる講義） *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前学習：次時の内容について教科書を読んで予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：扱った内容を復習すること。また、授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行うこと。（学習時間：2時間） 紹介した展覧会で鑑賞すること。
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション
履修上の注意	随時小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。
教科書	『決定版 日本書道史』名見耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円＋税金 適宜プリントを配布する。
参考書	『書学挙要―書の歴史と文化―』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7

演劇とパフォーマンスの歴史

栞井 智英

前期 4/8(月)～

月曜 10:40～12:10

授業のテーマ	シェイクスピアから大戦前までの演劇の歴史を理解し、現代演劇と映画やアニメなどの映像作品との関係を考える。
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。
到達目標	①戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成に応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）
授業計画	第1回 文芸と演劇について 第2回 ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画 第3回 ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画 第4回 ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画 第5回 ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性 第6回 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て 第7回 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ 第8回 近代：イブセン① イブセンについて 第9回 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニク 第10回 近代：自然主義から表現主義までの流れ 第11回 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理劇について 第12回 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術 第13回 現代：ブレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介 第14回 現代：ブレヒト② 現代劇への影響について 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。(学習時間2時間程度) 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要個所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。
教科書	適宜プリントを配布。
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。

演劇と現代社会

栞井 智英

後期 9/30(月)～

月曜 10:40～12:10

授業のテーマ	第2次世界大戦後の日本演劇の発展と英米のマイノリティを扱った演劇、そしてミュージカルに関する基本的知識を習得する。
授業の概要	戦後日本の現代演劇と英米演劇の発展を政治や社会背景と結びつけて解説する。また、作劇術や演技技術の発展などの要素も含めて紹介する。それに加え、映画やアニメなどの映像作品とも関連させて授業を行う。
到達目標	①上演分析に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成に応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）
授業計画	第1回 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について 第2回 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について 第3回 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動 第4回 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察 第5回 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅 第6回 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績 第7回 日本の小劇場：1980年代② バブル景気という背景と小劇場 第8回 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践 第9回 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技技術の発展 第10回 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー 第11回 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム 第12回 ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史 第13回 ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカルブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要個所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。
教科書	適宜プリントを配布。
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。

感情・人格心理学

山本 竜也

前期 4/12(金)～

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	心理学の観点から、感情および人格（パーソナリティ）の主要な理論と日常生活における役割について学ぶ。
授業の概要	ある状況における感情は人それぞれであり、その背後には人格（パーソナリティ）という個人を特徴づけるものがあると考えられている。これらは私たちが日常生活を送るうえで切り離せないものであり、対人関係にも影響を与える。「感情・人格心理学」では、感情や人格（パーソナリティ）について、具体的現象を交えながら学ぶ。
到達目標	1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序、維持、強度と、感情が行動に及ぼす影響について説明できる。【知識・理解】 2. 人格の概念及び形成過程について説明できる。【知識・理解】 3. 感情や人格（パーソナリティ）のアセスメント方法を説明できる。【知識・理解】
授業計画	第 1 回 オリエンテーション（授業概要と単位認定の説明） 第 2 回 感情の定義と主要な理論 第 3 回 感情の喚起、維持、強度 第 4 回 日常生活における感情の役割 第 5 回 ポジティブ感情の効果 第 6 回 ネガティブ感情の効果 第 7 回 感情調整の不全 第 8 回 感情のアセスメント方法 第 9 回 人格（パーソナリティ）の定義と主要な理論（人格の類型と特性等） 第 10 回 人格（パーソナリティ）の形成における生物学的要因 第 11 回 人格（パーソナリティ）の形成における社会・心理的要因 第 12 回 人格（パーソナリティ）の障害 第 13 回 人格（パーソナリティ）のアセスメント方法 第 14 回 感情・人格（パーソナリティ）の観点からよりよい生き方を考える 第 15 回 授業のまとめと試験
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。（1 時間） 授業後は内容の理解を深め、日常生活における知識や理論の応用について考える。（3 時間）
授業方法	原則的に講義であるが、適宜演習を取り入れるため積極的に参加すること。なお、各回でコメントシートの提出を求め、次の授業開始時に質問などに回答する。
履修上の注意	授業への積極的な参加を望む。他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。遅刻、欠席はしないこと。 公認心理師の受験資格取得のために、単位を修得する必要がある科目である。心理学科以外の学科の学生が履修する場合、履修を中止することはできないため、十分に検討したうえで履修登録を行うこと。修学上何らかの合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに、担当教員に当該授業における具体的な配慮内容について事前に合意できるように努めること。
教科書	特に指定しない。
参考書	中間玲子（編） 『感情・人格心理学』（ミネルヴァ書房、ISBN 9784623087105）

心理療法A

中村 博文

前期 4/10(水)～

水曜 14:50～16:20

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ－A. 精神分析と精神分析的な心理療法
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法A」では、精神分析と精神分析的な心理療法を学ぶ。精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論、かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また、精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を、精神分析的な心理療法という。 この授業では、精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに、精神分析的な心理療法の実践について学習する。
到達目標	(1)Freudの精神分析の考え方や概念について、4つの基本的な観点から説明することができる。【知識・理解】 (2)Freud以降の精神分析の発展について、主な学派とそれらの特徴を解説することができる。【知識・理解】 (3)精神分析、精神分析的な心理療法の技法について、専門用語を用いて説明することができる。【知識・理解】 (4)心に関する現象を、精神分析的な視点から説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 オリエンテーションー精神分析・精神分析的な心理療法とは？ 第2回 精神分析の基本的な観点①：局所論／構造論 第3回 精神分析の基本的な観点②：力動論 第4回 精神分析の基本的な観点③：経済論 第5回 精神分析の基本的な観点④：発達論 第6回 精神分析の技法①：催眠から自由連想へ 第7回 精神分析の技法②：転移、逆転移、中立性 第8回 精神分析の発展①：アドラーとユング 第9回 精神分析の発展②：精神分析の学派(1)ー自我心理学・対象関係論 第10回 精神分析の発展③：精神分析の学派(2)ー自己心理学・対人関係論 第11回 精神分析の発展④：対象の拡大 第12回 精神分析と精神分析的な心理療法①：精神分析の基礎にあるもの 第13回 精神分析と精神分析的な心理療法②：精神分析の新しい流れ 第14回 まとめ、試験 第15回 試験解題 *試験不要。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習（2時間以上）：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく（例：#01は「精神分析」「精神分析的な心理療法」、#02は「局所論」「構造論」、など）。 授業後学習（2時間以上）：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておく。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深める。
授業方法	講義形式。 毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	マイケル・カーン 2017 ベイシック・フロイトー21世紀に活かす精神分析の思考 岩崎学術出版社 ISBN：978-4753311262

土居健郎 1988 精神分析 講談社学術文庫 ISBN : 978-4061588516 小松貴弘・渡辺亘・中村博文 2019 時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門 創元社 ISBN : 978-4422117218 その他、授業内で適時紹介する。

心理療法 D

小松 貴弘

後期 9/27(金)～

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ 一D. 対人関係精神分析
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶことを目指す。 「心理療法D」では、主として対人関係精神分析をベースとした心理療法について講義を行う。対人関係精神分析は、サリヴァンを源流とする考え方であり、フロイトの精神分析がより生物学的要因を重視するものであったのに対して、社会的要因を重視したことに特徴がある。この立場の基本的な考え方と技法を学ぶとともに、受講生が心理療法の基礎の基礎から学ぶことを目指す。
到達目標	(1) 心理療法がどのような営みであり、どのような過程で学ばれるものであるかについて説明できる。【汎用的技能】 (2) 対人関係精神分析の基本的な考え方と心理療法の進め方を説明できる。【知識・理解】
授業計画	第1回 オリエンテーション：心理療法を学ぶ意味と心の捉え方 第2回 心理療法の前提(1)：心の健康と悩み 第3回 心理療法の前提(2)：心の成長 第4回 心理療法の本質(1)：心理療法とは何か 第5回 心理療法の本質(2)：心理療法のまなざし 第6回 心理療法の本質(3)：心理療法家の心構え 第7回 心理療法の実際(1)：事例の提示 第8回 心理療法の実際(2)：クライアントの視点 第9回 心理療法の実際(3)：セラピストの視点 第10回 心理療法の実際(4)：面接関係で起きること 第11回 対人関係精神分析を学ぶ(1)：対人関係精神分析の諸特徴 第12回 対人関係精神分析を学ぶ(2)：サリヴァンのパーソナリティ論 第13回 対人関係精神分析を学ぶ(3)：サリヴァンの発達論 第14回 対人関係精神分析を学ぶ(4)：サリヴァンの心理療法論 第15回 授業のまとめと期末試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前には各回の授業テーマについて教科書及び関連する文献に目を通しておくこと。<2時間> 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること。<2時間>
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。
教科書	『時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門』、小松貴弘・渡辺亘・中村博文編著、創元社、2019年、ISBN978-4-422-11721-8
参考書	『対人関係精神分析を学ぶ』、一丸藤太郎著、創元社、2020年、ISBN978-4422117553 その他、授業中に適宜紹介する。

青年期の臨床心理学

後期 10/2(水)～

黒崎 優美

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	青年期の諸課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	青年期に関連の深さまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。授業内のワークや課題への取り組みを通して、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。
到達目標	(1)青年期の諸課題について、臨床心理学的な観点から理解し、他者に伝えることができる。【知識・理解】 (2)授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】 (3)臨床心理学への興味・関心を深め、これから学んでいきたいことを明確にし他者に伝えることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 導入 授業の進め方、生涯発達と青年期 第2回 青年期の間関係(1) 親子関係 第3回 青年期の間関係(2) 友人・恋愛関係 第4回 青年期の就活・就労(1) 若者の働き方 第5回 青年期の就活・就労(2) 働くことと連結 第6回 青年期とひきこもり(1) ひきこもりの現状と課題 第7回 青年期とひきこもり(2) ひきこもりの社会的解決 第8回 青年期の非行・犯罪(1) 非行・犯罪の現状と課題 第9回 青年期の非行・犯罪(2) 相互作用からみた精神鑑定、裁判員制度 第10回 青年期の精神疾患と心理的支援(1) 心的状態としての“統合失調” 第11回 青年期の精神疾患と心理的支援(2) “うつ”と“新型うつ” 第12回 青年期の精神疾患と心理的支援(3) ルッキズムと摂食障害、整形依存 第13回 課題発表または課題レポート公開 「青年期の心理」 第14回 課題へのコメント、質疑応答 第15回 まとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：文献購読、配付資料（松蔭 manaba コンテンツ）確認 <2時間> 授業後学習：課題提出（松蔭 manaba レポート等）、まとめプリント作成 <2時間>
授業方法	講義、演習（ワーク、プレゼンテーション、ディスカッション）
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。
教科書	なし。毎回資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。

成人期・老年期の臨床心理学

後期 9/30(月)～

中村 博文

月曜 9:00～10:30

授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機
授業の概要	本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。
到達目標	(1)成人期・老年期の心理学的特徴について、説明できる。【知識・理解】 (2)成人期・老年期に生じやすい心理学的問題について、説明できる。【知識・理解】 (3)自らのライフサイクルにおける成人期・老年期の意味について推測・考察し、論述できる。【知識・理解】
授業計画	第 1 回 オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 第 2 回 成人期の心理学的特徴と発達課題 第 3 回 結婚・妊娠・出産 第 4 回 子育て 第 5 回 職場における問題 (1) : ストレスとメンタルヘルス 第 6 回 職場における問題 (2) : うつ病と自殺 第 7 回 老親の介護における心理的問題 第 8 回 中年期危機 第 9 回 老年期の心理学的特徴と発達課題 第 10 回 認知症 第 11 回 老年期うつと妄想 第 12 回 老年期における喪失体験 第 13 回 老年期における死の問題 第 14 回 まとめ、試験 第 15 回 試験解題 *試験不要。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習 (2時間以上) : シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく (例: #01は「生涯発達論」、#02は「成人期」「発達課題」、など)。授業後学習 (2時間以上) : 授業で取り上げた内容について、確認整理をしておく。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。
授業方法	講義形式。 毎回の授業において、小レポート (その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想) を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

教育・学校心理学

黒崎 優美

後期 10/1(火)～

火曜 9:00～10:30

授業のテーマ	教育・学校分野の心理学
授業の概要	教育現場において生じる諸課題及びその背景について、また教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 ワークやディスカッションを通して互いの考えや理解を共有します。
到達目標	①教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。【知識・理解】 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。【態度・志向性】 ③授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 導入 ～授業の進め方、子どもと教育・学校・社会～ 第2回 グループとしての学校(1) “空気”とグループ心性 第3回 グループとしての学校(2) グループ心性と“チーム学校” 第4回 グループとしての学校(3) “チーム学校”における教師・スクールカウンセラーの役割 第5回 いじめの心理(1) いじめの歴史と現状 第6回 いじめの心理(2) いじめの発生機序 第7回 いじめの心理(3) いじめの解決 第8回 不登校の心理(1) 不登校の歴史と現状 第9回 不登校の心理(2) 選択としての不登校とその課題 第10回 不登校の心理(3) 不登校の解決 第11回 学ぶことと心理(1) 学習と成長を可能にする相互作用 第12回 学ぶことと心理(2) 学習と成長を阻害する相互作用 第13回 課題発表とレポート公開「子どもと教育・学校・社会」 第14回 課題への講評、質疑応答 第15回 まとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：文献購読、配付資料（松蔭 manaba コンテンツ）確認。<2時間> 授業後学習：課題提出（松蔭 manaba レポート等）、まとめプリント作成。<2時間>
授業方法	講義、演習（プレゼンテーション、ディスカッション）
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。
教科書	なし。毎回資料を配布します。
参考書	石隈利紀編 2019 教育・学校心理学(公認心理師の基礎と実践 / 野島一彦, 繁榎算男監修 ; 第18巻) 遠見書房ISBN 9784866160689 その他については、適宜紹介します。

対人コミュニケーション論

待田 昌二

後期 9/27(金)～

金曜 14:50～16:20

授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ全員が顔見知りというコミュニティでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。
到達目標	(1) 対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの種類と特徴及び対応する心の働きを説明できる。【知識・理解】 (2) 日常の対面的コミュニケーション、特に非言語的な情報のやり取りを分析できるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか 第2回 姿かたち—なぜ様々な顔があるのか 第3回 姿かたち—顔立ちから性格はわかるか 第4回 姿勢としぐさ—感情の伝達 第5回 姿勢としぐさ—様々なしぐさ 第6回 表情—基本的表情 第7回 表情—笑いと表情の統制 第8回 情動反応 第9回 情動の誤帰属と目に表れる情動反応 第10回 目は心の窓：凝視と視線回避 第11回 対人距離 第12回 行動観察と達成度確認試験 第13回 嘘は見破れるか 第14回 装いの社会・心理的機能 第15回 社会的スキル 期末試験 *全ての授業回で[PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：松蔭manabaで授業前に示す課題を行う(学習時間1時間) 授業後学習：松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える(学習時間3時間)
授業方法	主に講義形式だが、manabaからの課題提出などを授業中に行う。<BYOD 対象科目>
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭 manaba で示す授業前学習、授業後学習を行うこと。
教科書	使用しない。
参考書	松蔭 manaba において紹介する。

ジェンダーの心理学

土肥 伊都子

前期 4/10(水)～

水曜 13:10～14:40

授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ
授業の概要	男女に対する固定観念が、ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。
到達目標	(1)人の行動や心の状態を、適切な方法で把握し、分析することができる。【汎用性技能】 (2)自分自身に向き合い、深い自己理解を得ようとする。【態度・志向性】
授業計画	第1回 「女性」とは？「男性」とは？ 第2回 ジェンダー・ステレオタイプとは 第3回 ジェンダー・ステレオタイプの形成 第4回 ジェンダー・ステレオタイプの維持 第5回 自己とジェンダー・ステレオタイプの維持 第6回 性別役割分業社会が思いこみをつくる 第7回 日本的土壌が思いこみをつくる 第8回 ジェンダーによる心身への影響 第9回 ステレオタイプが現実をつくる 第10回 ステレオタイプと差別・偏見 第11回 心理学とステレオタイプ 第12回 心理学のつくり変えとジェンダー・ステレオタイプの変容 第13回 多様性と連帯によるジェンダー社会の変容 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 まとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間：2時間)
授業方法	【対面授業】
履修上の注意	教科書を必ず用意すること
教科書	「新版 ジェンダーの心理学」 青野篤子・土肥伊都子・森永康子（著）（ミネルヴァ書房） ISBN:978-4-623-09292-5
参考書	

被害者支援の心理学

後期 10/2(水)～

大和田 攝子

水曜 13:10～14:40

授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。
到達目標	(1) 被害者の心理と支援について学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】 (2) 被害者支援に関する具体的な事例に触れることで、実際にどのような支援が行われているのかを説明することができる。【知識・理解】
授業計画	第 1 回 被害者支援とは 第 2 回 被害者支援の歴史 ～被害者はどのように扱われてきたのか 第 3 回 被害者の抱える心理的問題 ～二次被害とは 第 4 回 被害の体験を聴く (ゲスト・スピーカー招聘予定) 第 5 回 被害者カウンセリングの基本 第 6 回 ト라우マと PTSD 第 7 回 PTSD の心理療法 第 8 回 質疑応答と試験① 第 9 回 遺族の心理的問題と対応 第 10 回 性暴力被害者の心理的問題と対応 第 11 回 虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第 12 回 ドメスティック・バイオレンス被害者の心理的問題と対応 第 13 回 援助者のストレスと対応 第 14 回 質疑応答と試験② 第 15 回 グループ発表とディスカッション *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：授業では小グループでの発表を予定しているため、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、発表資料を用意する。<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する。<2時間>
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3 以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	『犯罪被害者のメンタルヘルス』小西聖子 (編著) 誠信書房 ISBN978-4-414-40047-2

食生活論

川口 真規子

前期 4/11(木)～

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、食品の持つ「食生活と栄養（5大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。次に、「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と環境」などについて解説する。健康とは何か、そして、健康な生活を送るために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目的とする。
到達目標	1) 5大栄養素についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 2) 食生活、調理、食文化についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 3) 食生活と健康についての基本的な問題に答えられる。【知識・理解】
授業計画	第1回 はじめに ～人の一生と食事～ 私たちの食生活と健康 第2回 食生活と栄養(炭水化物) 第3回 食生活と栄養(タンパク質①) 第4回 食生活と栄養(タンパク質②) 第5回 食生活と栄養(脂質) 第6回 食生活と栄養(ビタミンとミネラル①) 第7回 食生活と栄養(ビタミンとミネラル②)【PC 必携】 第8回 おいしさと健康のための調理 食品の機能【PC 必携】 第9回 食生活と食文化 第10回 ライフサイクルと食生活(妊娠期・授乳期) 第11回 ライフサイクルと食生活(乳児期・幼児期) 第12回 ライフサイクルと食生活(学童期・思春期・成人期) 第13回 ライフサイクルと食生活(高齢期)健康づくりと食生活【PC 必携】 第14回 食育の意義 食生活と環境【PC 必携】 第15回 まとめと期末テスト *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 調査学習の課題についてグループでディスカッションを行いプレゼンの準備をする。 (学習時間：2時間) 授業後：配布プリント使い学習内容をノートにまとめる。(学習時間：2時間)
授業方法	《BYOD対象科目》 講義 ただし、「食生活と食文化」の授業時にはグループに分かれて調査学習とプレゼンテーションを行う。
履修上の注意	内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。
教科書	大学で学ぶ食生活と健康のきほん 吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 化学同人 ISBN 978-4-7598-1828-4 適宜プリントを配布
参考書	特になし

神戸論

江 弘毅

前期 4/8(月)～

月曜 10:40～12:10

授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。
授業の概要	この授業では、松蔭が神戸・地元の大学であることを前提に、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての独自の魅力と社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の歴史、開港が決定づけた街の性格、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。 続いて、神戸のたぐいまれな街の魅力とそのさまざまなコンテンツ、そして社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい都市生活を送るための知識を習得する。 最後に大水害、空襲による破壊、震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。(知識・理解) (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。(知識・理解) (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること(態度・志向性)
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか [PC 必携] 第2回 神戸と2回の開港。古代から [PC 必携] 第3回 慶応3年(旧暦)1868年開港が決定づけた神戸 [PC 必携] 第4回 開港と外国人の居住による文化 [PC 必携] 第5回 近代建築で神戸をとらえる [PC 必携] 第6回 神戸の洋食～欧米料理 [PC 必携] 第7回 神戸のパン、スイーツ [PC 必携] 第8回 神戸と中国人、中華街の南京町 [PC 必携] 第9回 神戸の観光 [PC 必携] 第10回 神戸の地勢、自然 [PC 必携] 第11回 ファッション都市・神戸 [PC 必携] 第12回 阪神間モダニズムについて [PC 必携] 第13回 災害と神戸 [PC 必携] 第14回 メディアのなかの神戸 [PC 必携] 第15回 神戸流生活術 [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習(準備学習の内容)	神戸の都市としての特徴や魅力をmanabaや参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ...から抽出し、資料としてストックし、学習すること(90分)。その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること(120分)。
授業方法	あらかじめ毎回manabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 (BYOD対象科目) 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。
教科書	なし。manabaと毎回の授業内容に応じて。レジュメや資料を配付します。
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN:4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343007339

<p>『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター、ISBN: 9784343010575</p> <p>『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006035</p> <p>『灘の歴史』田辺真人監修、灘区80年史編集委員会編、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006455</p> <p>『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343007254</p> <p>『神戸外国人居留地ージャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー 』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481</p> <p>『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280</p> <p>『南京町と神戸華僑』呉宏明、高橋晋一編著、松籟社 ISBN-10:4879843385</p>

家族文化論

稲見 直子

前期 4/11(木)～

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	少子化社会における家族文化について概説し、子どもが育つ環境を整備し支援していくための社会的支援について考える。家族がそのライフコースにおけるターニングポイントにおいて通過儀礼として経験する結婚、出産、死などに関して生活学の視点から考察をする。結婚、生（命）の誕生と終焉の場面において、家族や地域に受け継がれてきた儀礼が特定サービス産業に担われるに従い、変化を余儀なくされている。当事者本人と家族が、生（命）の選択や誕生、終焉に対して自由な選択肢を持つとともにリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。
授業の概要	家族がそのライフステージにおいて経験する家族や地域に受け継がれてきた文化について考察する。当事者本人と家族が、結婚、生（命）の選択や誕生、子育て、青年期のアイデンティティ確立に対して自由な選択肢を持つと共にリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。また格差社会における子育てにも焦点を当てるとともに、グローバル化が進んだ社会における多文化共生社会についても概説し、多様な家族文化の中で起こる問題点を解決する社会的支援について説明する。
到達目標	(1) 親や家族の関わり方についての歴史を概観し、近代社会における子育ての文化を理解できる。【知識・理解】 (2) 子ども（乳幼児）の発達と生活についての基本的な知識を理解する。【知識・理解】また、保育観察を通して、子ども（乳幼児）と関わるためのコミュニケーションについて、実践的に学ぶ。【態度・志向性】 (3) 多文化共生社会に育つ子どもの社会化を学び、家族文化の多様性を認識できる。【知識・理解】
授業計画	第1回 晩婚化－結婚に関する家族文化の変化－（グループワーク） 第2回 生殖技術のもたらすもの 第3回 子どもの社会化と文化 第4回 母性神話と3歳児神話 第5回 育児とジェンダー 第6回 ひとり親家族と社会的支援 第7回 子どもの運動機能の発達・基本的生活習慣、保育観察事前指導 第8回 保育観察（次回までに保育観察記録作成） 第9回 地域社会における子育て支援 第10回 子どもの遊びと社会性の発達・地域子育てセンター事前指導 第11回 地域子育てセンター観察（次回までに保育観察記録作成）（学外見学・フィールドワーク） 第12回 日本のマイノリティ家族 第13回 家族の国際化と子ども（プレゼンテーション） 第14回 多文化共生社会における子どものアイデンティティ 第15回 子どもと社会・文化環境、期末テスト *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前準備学習：授業の前に次回授業に関する内容について参考書や新聞記事などを示すので、そのテーマに沿って下調べをする。＜2時間＞ 授業後学習：結婚に関して、その歴史的変遷や現代の結婚が儀式として家族文化の中にどのように捉えられてきたかに関して、グループワークを行う。地域の子育て支援をフィールドワークし、その観察記録を作成し、地域社会における子育てについてレポートを作成する。＜2時間＞
授業方法	講義：結婚に関する家族文化についてはグループワークを行い、女性のライフコースの中でどのような価値観によって、結婚の時期、配偶者選択、結婚式という文化が形成されるか、グループ討議を行い発表する。また子育ての文化については、ジェンダーに基づく価値観がどのように浸透し、今日の育児の文化が形成されてきたかを理論的に検討する。検討結果をもとにフィールドワークを行い、地域における子育て支援の現状を把握し、格差社会における子育ての課題を考

	え、対策について松蔭manabaを使ってプレゼンテーションを行う。
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 学外に出て、データを集めたりフィールドワークをし、その結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。
教科書	その都度配布物を渡します。
参考書	『グローバリゼーションと子どもの社会化：帰国子女・ダブルスの国際移動と多文化共生』、竹田美知、学文社、2015、ISBN978-4762024986

色彩学

前期 4/12(金)～

花田 美和子

金曜 9:00～10:30

授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に付ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる【知識・理解】 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる【汎用的技能】 色と光の関係について科学的に説明することができる【知識・理解】 生活と色に関する諸問題について考察することができる。【知識・理解】
授業計画	第1回 生活と色、色の心理的效果 第2回 色の表示（色の三属性、色名） 第3回 色の表示（マンセルシステム） 第4回 色の表示（PCCS） 第5回 色の表示（オストワルト表色系、NCS） 第6回 三刺激値による色の表示 第7回 まとめと中間試験 第8回 配色技法 第9回 カラーコーディネートの実践① 第10回 カラーコーディネートの実践② 第11回 光と色 第12回 色の生理 第13回 色の測定 第14回 混色と色再現 第15回 まとめと期末試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をプリント（理解しようシリーズ）で確認し、演習課題に取り組む（2.5時間）
授業方法	講義、一部演習を含む。
履修上の注意	1. 教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 2. 配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。
教科書	「生活の色彩学 一快適な暮らしを求めて―」橋本令子・石原久代 編著（朝倉書店ISBN:978-4-25-460024-7） 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社
参考書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社）ISBN:978-4502445804

化粧心理学

鳥居 さくら

後期 9/26(木)～

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	化粧行動の心理学的観点からの考察
授業の概要	化粧行動は、人間の生存に直接関わる行為ではないにも関わらず、古来より世界各地でおこなわれてきた。その意味を知覚心理学、認知心理学、社会心理学、生理心理学、健康心理学、人格心理学、高齢者心理学などのさまざまな心理学的見地から考察する。また実際の生活場面に適した自己表現としての化粧について考える。人間として心身ともに健康に生きていくための力と知識を化粧行動をとおして身につける。
到達目標	1. 化粧行動の効用を複数の心理学的観点から説明できる。[知識・理解] 2. 生活における化粧行動の心理的意味について自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 状況や場面に応じた自己表現方法について考えることができる。[知識・理解][汎用的技能]
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 化粧と自己表現 [PC 必携] 第3回 社会と自己表現 [PC 必携] 第4回 化粧と自己愛 [PC 必携] 第5回 化粧と対人魅力 [PC 必携] 第6回 肌の視覚的認知 [PC 必携] 第7回 肌とストレス [PC 必携] 第8回 肌状態による印象の違い [PC 必携] 第9回 顔における年齢・性別の印象 [PC 必携] 第10回 表情の視覚的特徴 [PC 必携] 第11回 顔と化粧に関するグループワーク [PC 必携] 第12回 顔と化粧に関するグループワーク発表 [PC 必携] 第13回 化粧と感情 [PC 必携] 第14回 医療分野や高齢者における化粧の心理的効果 [PC 必携] 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：授業で指定された課題をレポートとして作成、または、松蔭manabaに投稿する(学習時間：2<時間>)
授業方法	主に講義形式でおこなう。顔写真や化粧品などを用いて評価し、グループでディスカッションし、レポートを作成する授業回もある。manaba を利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	「顔の百科事典」 丸善出版 ISBN: 978-4-621-08958-3 「化粧行動の社会心理学 化粧する人間のこころと行動」 北大路書房 ISBN: 978-4-7628-2226-1

神戸の食と文化

江 弘毅

前期 4/11(木)~

木曜 9:00~10:30

授業のテーマ	地元・神戸の食と文化を概観するとともに、その特徴や魅力を押さえる。
授業の概要	海と山に囲まれ自然と豊富な食材に恵まれた環境にある神戸は、開港以来、外国文化を取り入れ、洋食・パン・洋菓子、中国料理やインド料理、ベトナム料理など、日本独自の料理に限られることのない多様で国際色豊かな食文化を培ってきた。 近年、世界からも注目される日本の味わいの土台をつくり、外国の食文化と日本独自の食文化をうまく融合させて、日本の食をけん引してきた神戸の食。現在も神戸は日本を代表する「グルメ都市」として、さまざまな食のトレンドを牽引し、観光客を魅了している。 その背景にある文化を歴史的に考察しながら、江戸時代から現代に至る神戸の食文化の変遷と熟成について理解を深めるとともに、あたらしい神戸の食の魅力創造にもスポットを当てる。
到達目標	(1)「地元人」というスタンスから神戸の食について知り、語り、書き、表現することができる。(知識・理解) (2)和食、フランス料理、中国料理などの神戸の代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。(知識・理解) (3)魅力ある神戸グルメについて、独自の企画を立てたり情報発信することができる。(態度・志向性)
授業計画	第1回 ガイダンス この授業で何をやるのか。どんな授業なのか 第2回 神戸の食、の現在進行系～最前線 第3回 神戸～兵庫県の地勢、自然と恵まれた食材 第4回 神戸の食を「和食」から見る＝「上方(摂津の)料理」の伝統 第5回 灘の生一本。日本酒づくり 第6回 神戸開港と洋食。その始まりと展開 第7回 神戸の洋食とその系譜 第8回 「パン・スイーツの街・神戸」の歴史と展開 第9回 世界を魅了する「神戸ビーフ」 第10回 神戸のエスニック・コミュニティ(とくにイスラム圏、ベトナム)に見る食 第11回 神戸の中国料理と中華街・南京町 第12回 神戸のお好み焼きと地ソース 第13回 神戸観光とグルメ。フードツーリズムの観点から 第14回 神戸の食はメディアにどう取り上げられているか 第15回 この授業のまとめと試論提出 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前、授業後にmanabaおよび神戸の食に関する参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する(90分)。 神戸にある老舗の洋食店、パン屋、洋菓子店、中国・インド料理店など、そして長田区のお好み焼き店集中エリアを意識して訪ね、食べるなど実体験する(90分)。 雑誌など出版物の神戸の特集グルメ記事や新聞、雑誌、印刷物そしてインターネットで神戸食関連の資料を集め、ストックし、学習する(60分)。
授業方法	講義は毎回manabaにコース・コンテンツを挙げます。 毎回、レジュメや資料を配布し講義します。 授業中のその都度の質問と応答、そして毎回の講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 PCもしくはタブレットは必携のこと。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることができません。
教科書	毎回、レジュメや資料を配布します。
参考書	『聞き書 兵庫の食事(日本の食生活全集)』日本の食生活全集兵庫編集委員会編、農山漁村文化協会 ISBN-10454091006 : X 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339

『神戸と居留地』神戸外国人居留地研究会編、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343003159 『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343010575 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280 『神戸のパン・ケーキ・チョコレート』神戸新聞出版センター ISBN-10: 487521325 『神戸とお好み焼き 比較都市論とまちづくりの視点から』三宅正弘著、神戸新聞総合出版センター IISBN-10: 4343002055 『日本外食全史』阿古真理著、亜紀書房 IISBN-9784750516837 『ケンミン食のなぜ』阿古真理著、亜紀書房 IISBN-9784750517834
--

基礎生物

坂上 元祥

前期 4/8(月)～

月曜 14:50～16:20

授業のテーマ	管理栄養士の専門科目の学習に必要な生物学の基礎知識を学ぶ
授業の概要	エネルギー・栄養素の代謝、遺伝子とタンパク質の構造と機能などヒトの生物学全般について解説し、専門科目の学習に必要な生物学の基礎知識の習得することを目指す。分子生物学と細胞生物学の研究者が講義するため、単に高校生物の復習だけを行う科目ではない。高校で生物学を学んだ学生にも履修を勧める。
到達目標	解剖生理学や臨床医学にかかわる科目の学習と理解に必要なエネルギー代謝や遺伝子とたんぱく質の構造と機能、細胞の情報伝達について説明ができること【知識・理解】
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、講義開始前の理解度のチェック</p> <p>第2回 栄養素の種類1：エネルギーとは、糖質の種類と性質（1章、2章）</p> <p>第3回 栄養素の種類2：糖からエネルギーを得る仕組み（解糖系）（3章）</p> <p>第4回 栄養素の種類3：脂質の種類と性質、ビタミンとミネラル（4章、5章、6章）</p> <p>第5回 生命体の構造と機能1：細胞の構造と機能（7章）</p> <p>第6回 生命体の構造と機能2：DNAの構造と機能（8章）</p> <p>第7回 生命体の構造と機能3：DNAの転写と翻訳（9章）</p> <p>第8回 前半のまとめ：確認の試験（30分）を行い、そのあと解説をする</p> <p>第9回 生命体の構造と機能4：タンパク質の構造と機能（10章）</p> <p>第10回 生命体の構造と機能5：細胞間と細胞内の情報伝達（11章）</p> <p>第11回 生命体の構造と機能6：神経の興奮と神経伝達（11章）</p> <p>第12回 生命体の構造と機能7：細胞分裂・細胞周期（発生・分化）（12章、13章）</p> <p>第13回 誕生と老化1：DNA損傷、活性酸素、自然免疫・獲得免疫（14章、15章）</p> <p>第14回 誕生と老化2：ES細胞、iPS細胞、再生医療（16章、17章、18章）</p> <p>第15回 後半のまとめ：確認の試験（30分）を行い、そのあと解説をする</p> <p>※理解度に合わせて講義スケジュールを変更することがある</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>授業前：教科書で講義内容を確認する（60分）</p> <p>授業後：授業で学習した内容を復習し、復習試験や確認の試験に備える（120分）</p>
授業方法	Power Pointを用いた講義（60分程度）、そのあとに演習（15分）と解説（10分）をする。講義資料を配布する予定である（資料には空欄があり、講義時にそこを埋めること）
履修上の注意	<p>単位取得には2/3以上の出席が必要（演習課題などもあるので実際には12回程度必要となる）</p> <p>20分以上の遅刻は欠席扱いとする（遅延証明がある場合を除く）</p> <p>一般的な講義のマナーは守る（私語、居眠り、スマートフォンなど）</p> <p>スマートフォンやタブレット：指示があるときのみ使用できる</p>
教科書	大学で学ぶ身近な生物学、吉村成弘 著、羊土社、ISBN978-4-7581-2060-9、2,800円＋税
参考書	

ジェンダーとファッション

後期 10/1(火)~

戸田 賀志子

火曜 14:50~16:20

授業のテーマ	ジェンダーの視点からみるファッション
授業の概要	ファッションはジェンダーとどのようにかかわってきたのか、日々更新され続けているテーマについてメディア（新聞・雑誌、映画、テレビ、写真、インターネットなど）をはじめ視覚資料を多用することによって歴史的に跡づけ、今日的な問題として捉えるための基本的な考え方への導入を図る。
到達目標	(1)ジェンダーの概要をファッションとのかかわりを通じて考え、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)ヒトと衣服の関係性をジェンダーの視点から捉え、具体的にわかりやすい文章で述べるができる【汎用性技能解】 (3)課題について討議、発表することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ジェンダーとは 第3回 メディアにみるジェンダーファッション 第4回 発表 第5回 『ボーイスカート』を読む 第6回 発表 第7回 ジェンダーと表象 第8回 ジェンダーと色 第9回 ジェンダーと制服 第10回 発表 第11回 スカートとズボンの表象 第12回 ディズニープリンセスにみるジェンダー 第13回 ファッションにみるジェンダー 第14回 ジェンダーフリーファッション 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：メディア（新聞、雑誌、映像、インターネット）などを通じ、ジェンダーやファッションイメージに意識的に触れ、日常にある「...らしさ」を見つける。事前に指定されたキーワードに基づいて下調べを行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理する。要点をまとめる。（学習時間：2時間）
授業方法	講義：事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を活用し、理解を深める。 今日的な話題については、授業中にPCを用いて、最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない場合は、受講資格を失う。
教科書	とくに定めない。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。

デジタルデザイン論

山本 浩司

後期 10/1(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	デジタル技術とweb デザインについて
授業の概要	前半: 普段無意識に接している『デジタル』。それがどういう仕組みで動いているのか、対義である『アナログ』との比較を通して、それらの違いと特徴を学びます。また、デジタル時代の問題点やその対策についても考察します。 後半: 普段目にするwebサイトやブログ、SNSなどの画面はどのように作られているのかを学び、空間デザインやファッション、グラフィックといった他の分野のデザインとはどう違うのか、また、どういう点が共通しているのかについて考察します。
到達目標	デジタル技術およびweb デザインの仕組みを理解できる。【知識・理解】 デジタルでのデザイン制作をするために必要な発想・思考ができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 ガイダンス～デザインの定義と領域 第2回 身の回りのアナログとデジタル 第3回 アナログからデジタルへ～メディア技術の歴史について学ぶ 第4回 デジタル技術のメリットとデメリット 第5回 デジタル技術と著作権の問題について考察する 第6回 コンピュータの仕組みを学び、これからのデジタル社会を考察する 第7回 デジタルデータのフォーマットと管理方法 第8回 前半のまとめと試験 第9回 web サイトの成り立ちとその仕組み 第10回 web デザインについて学ぶ(1)web のトレンドの変化 第11回 web デザインについて学ぶ(2)文字のデザイン 第12回 web デザインについて学ぶ(3)色の持つ意味 第13回 web デザインについて学ぶ(4)美しいページレイアウト 第14回 web デザインについて学ぶ(5)ユーザビリティとアクセシビリティ 第15回 後半のまとめと試験 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 前回までの学習内容をよく理解し、復習に努めてください。(学習時間 90 分) 授業後学習: 普段から目に留まる web サイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努めてください。(学習時間 90 分)
授業方法	講義: スクリーンに画像を投影しながら進めます。前半(1-7回目)と後半(8-15回目)に分けて行い、前半ではアナログとデジタルの特徴について、後半では、webデザインを中心にデジタルデザインを行う上で必要な知識について学びます。前後半のまとめとしてレポートの作成と試験を行います。
履修上の注意	前半と後半に1回ずつ試験を実施しますので、復習に努めてください。
教科書	毎回、資料を配付します。
参考書	

インテリア史

米原 慶子

後期 10/1(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	インテリアデザインの歴史を概観する
授業の概要	古代から近現代にいたる主要なインテリアデザインの歴史を、西洋と日本を対比しながら学ぶ。西洋古典と日本伝統の建築様式の変遷や、モダンデザインの黎明期からアール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後から近年に至るまでに、欧米や日本で生み出された優れた空間デザインやインテリアエレメントの事例とその背景についての理解を深める。 ヴィジュアルな資料を多用し、幅広いデザインの教養を身につけると共に、インテリアコーディネーター資格試験対策としての問題解説も行う。 キーワード：インテリア、デザイン史、デザイナー
到達目標	(1) インテリア史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。(知識・理解) (2) 著名ないくつかのインテリアエレメントについて、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。(知識・理解) (3) 各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。(知識・理解)
授業計画	第1回 ガイダンス (授業の概要, 進め方と学習目標など) 椅子とあかりの基礎知識 第2回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー古代・中世 第3回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー近世 第4回 問題解説①-西洋古典のインテリア、 日本伝統の空間とインテリアエレメントー古代 第5回 日本伝統の空間とインテリアエレメントー中世・近世 第6回 身近にある西洋古典と日本伝統の空間の事例見学 (学外見学・研修実施予定) (旧ハンター住宅と竹中大工道具館、土曜日に振替で行う) 第7回 日本とヨーロッパの民家・町家 問題解説②-日本伝統の空間とインテリアエレメント 第8回 モダンデザインの黎明-ジャポニズム/万国博覧会・明治の日本 第9回 アール・ヌーヴォー (新しい芸術) のデザイン 第10回 初期近代建築と1910-30年代のデザイン・ムーブメント 第11回 バウハウスと巨匠達の時代とデザイン 第12回 北欧のモダンデザイン 問題解説③-近代のインテリア 第13回 ミッド・センチュリーのアメリア・イタリア 日本の近代化 第14回 ポスト・モダニズムの時代 問題解説④-日本の近代化 第15回 期末試験、補足とミニレポートのまとめ ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回の授業前にテキストの該当部分を読み、参考資料を調べしておくこと。 (学習時間：2時間) 授業後学習：各回の授業で参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、学習を深めること。テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい (学習時間：2時間)。
授業方法	講義 (スライドレクチャー)、問題解説 (インテリアコーディネーター試験過去問題など) を組み合わせて行う。毎回のミニレポートをチェックバックすることで、双方向型の授業とする。
履修上の注意	この授業は BYOD 対象授業である。

	<p>第4回、第7回、第12回、第14回の「問題解説」を行う回および第15回の期末試験では、manabaの「小テスト」を利用するので、各自のPCを必携のこと。</p> <p>学外研修に必要な入場料、交通費は学生各自の負担とする。</p>
教科書	<p>「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目と共用あり) 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3</p>
参考書	<p>「インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2024 上巻」 発行：ハウジングエージェンシー 「増補新装 カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN-10：4568400848 その他、授業中に紹介する。</p>

■ ■ 時間割

曜日 時限	月	火	水	木	金
I 9:00～ 10:30			フランス語ⅡA —前期(打田)	神戸の食と文化 —前期(江)	色彩学 —前期(花田)
	成人期・老年期の臨床心理学 —後期(中村)	教育・学校心理学 —後期(黒崎)	フランス語ⅡB —後期(打田)		
II 10:40～ 12:10	演劇とパフォーマンスの歴史 —前期(柘井)	ビジネス中国語A —前期(古川)		食生活論 —前期(川口)	
	神戸論 —前期(江)	コンピューティングA —前期(Spaelti)		家族文化論 —前期(稲見)	
	演劇と現代社会 —後期(柘井)	ビジネス中国語B —後期(古川)	青年期の臨床心理学 —後期(黒崎)	化粧心理学 —後期(鳥居)	
		コンピューティングB —後期(Spaelti)			
III 13:10～ 14:40	単語と文のしくみ —前期(西垣内)	英語コンピュータ特論A —前期(西垣内)	ジェンダーの心理学 —前期(土肥)	諸宗教とキリスト教 —前期(木鎌)	中国語通訳翻訳演習 —前期(古川)
				韓国語コミュニケーションA —前期(金)	日本語教授法応用A —前期(田附)
		現代社会とキリスト教 —後期(木鎌)	被害者支援の心理学 —後期(大和田)	韓国語コミュニケーションB —後期(金)	感情・人格心理学 —前期(山本)
		英語コンピュータ特論B —後期(西垣内)			日本語教授法応用B —後期(田附)
		デジタルデザイン論 —後期(山本)			心理療法D —後期(小松)
		インテリア史 —後期(米原)			
IV 14:50 ～16:20	基礎生物 —前期(坂上)	英語コミュニケーション概論A —前期(川中)	心理療法A —前期(中村)	社会心理学 —前期(待田)	
		アジア文化入門A —前期(金)			
	日本書道史 —後期(丸山)	英語コミュニケーション概論B —後期(川中)			対人コミュニケーション論 —後期(待田)
		アジア文化入門B —後期(古川)			
		ジェンダーとファッション —前期(戸田)			
V 16:30 ～18:00					

注)教室は、開講時にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」にてご案内いたします。

■ 注意事項

- 前年とほぼ同じ授業内容の科目もあります。再受講を希望される方は、授業内容を確認の上、受講してください。
- シラバスは本要項記載のものより、多少の変更がある場合があります。
- 教科書、参考書は各授業の内容をご覧の上、ご購入ください。教科書リストは受講手続きの際にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」に掲載します。
- 各授業では学習支援システム「松蔭 manaba」を使用いたします。
- **パソコン持参の科目があります。シラバスを確認してください。**
- 休講等の諸連絡はすべて「松蔭ポータル」という WEB システムを通じて行います。詳細については、受講手続きの際にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」に掲載しますので、ご確認ください。
- 学生割引・通学証明書等は交付いたしません。また、本学の諸設備の利用について制限が設けられることがあります。
- 学内への自動車乗入れはご遠慮ください。
- 途中で受講を取り消される場合には、必ず教務課までご一報の上授業公開講座受講生証をお返してください。
- 授業公開講座受講生としてふさわしくない行為があると認められる場合、その受講をお断りすることがあります。
- 対面授業、遠隔授業があります。各科目の授業内容・授業計画に掲載されている「授業方法」をご覧ください。

1 社会人特別編入学制度

(女性のみ)

変化の激しい時代の中で、さらなるスキルアップを目指したい、大学で学び直したいと希望している社会人女性に、本学学生とともに、世代を超えて互いに啓発し、学びあえる場を提供することを目的としています。(2025年4月1日現在で満35歳以上の方が対象。)学費は社会人特別編入学の減免措置を全員に適用し、学びやすい設定になっています。詳細は、6月頃大学公式サイトに掲載予定です。

■問 合 せ:神戸松蔭女子学院大学 入試・広報課 TEL.078-882-6123

2 科目等履修生制度

(女性のみ)

本学では、1993年度より科目等履修生制度を設けて、生涯学習の推進を図り、広く一般の方々に学修の機会を提供しております。

科目等履修生制度は、大学が開設する授業科目の中から特定の授業科目だけを履修し、試験等に合格した場合に本学の正規の単位が授与される制度で、履修期間は1年以内です。

短期大学を卒業した方および大学において2年以上在学し、62単位修得した方が、この制度により大学の科目等履修生として修得した単位を加算することにより、学位授与機構の修得単位の審査および学修成果・試験の審査を経て、学士の資格が取得できるようにもなっています。学位の取得に関しては「独立行政法人 大学評価・学位授与機構」のホームページでご確認ください。

■出願期間:1期 2024年2月1日(木)~3月8日(金)【全科目対象】

2期 2024年7月1日(月)~7月31日(水)【後期科目のみ対象】

■問 合 せ:神戸松蔭女子学院大学 教務課 科目等履修生係 TEL.078-882-6133

3 神戸松蔭公開講座

★無料・申込み不要(男女不問)

本学では、大学および大学の付置する諸研究所・機関等の研究・教育の成果、および本学の持つ知的・教育的資源を地域に還元し、地域社会に根ざした大学を目指して各種の公開講座を開催しています。

詳細は、ホームページでお確かめください。

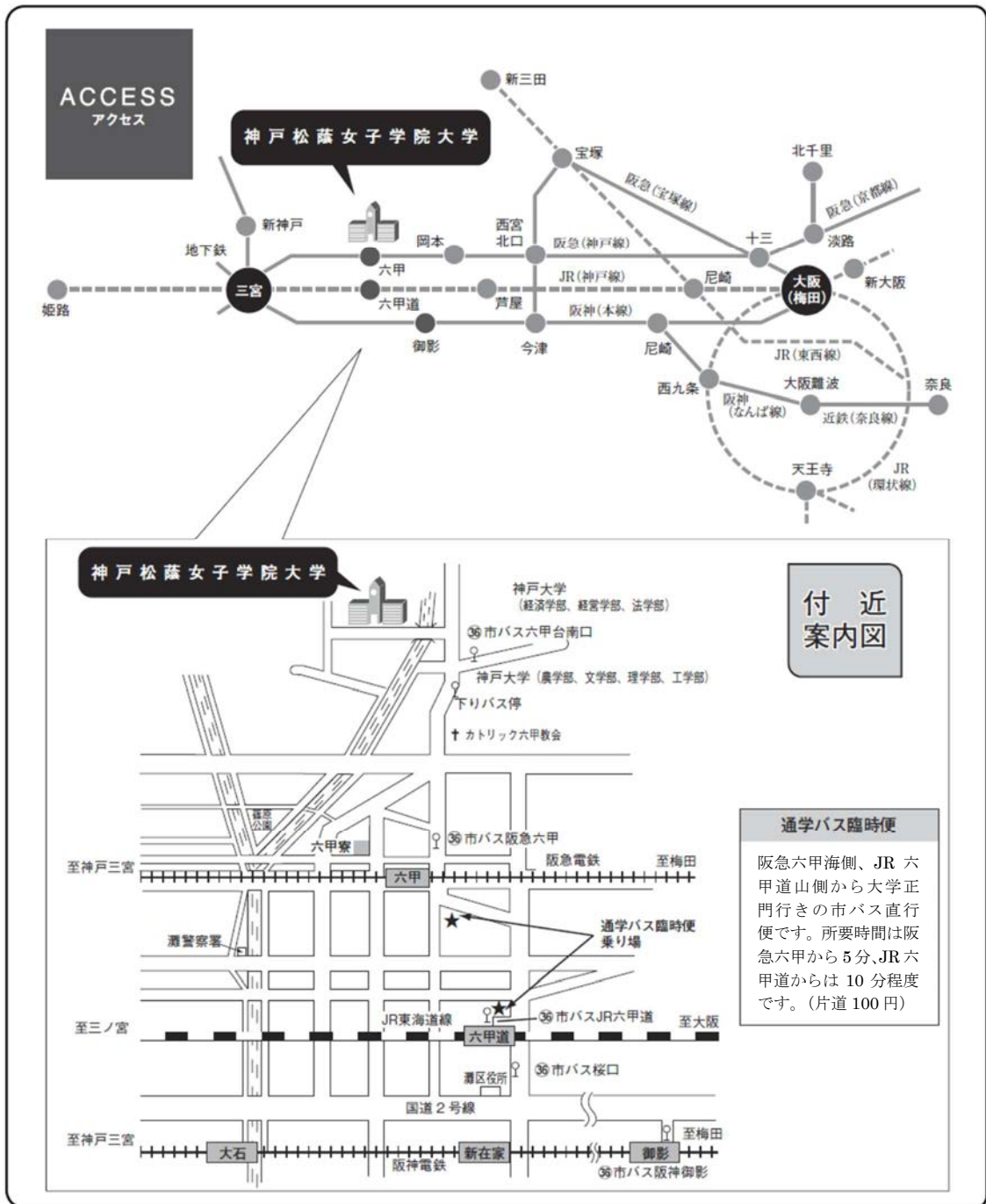
■問 合 せ:神戸松蔭女子学院大学 企画課 TEL.078-882-6159

■ ■ 学内案内図



■ ■ 本学の位置及び交通機関

神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1



通学バス臨時便
 阪急六甲海側、JR 六甲道山側から大学正門行きの市バス直行便です。所要時間は阪急六甲から5分、JR六甲道からは10分程度です。(片道100円)

大阪(梅田)から最寄りの駅までのアクセス
 ○阪急梅田駅から岡本駅まで特急で約20分、普通に乗換え阪急六甲駅まで約5分。
 ○JR大阪駅から六甲道駅まで快速で約23分。

神戸(三宮)から最寄りの駅までのアクセス
 ○阪急神戸三宮駅から阪急六甲駅まで普通で約7分。
 ○JR三ノ宮駅から六甲道駅まで快速で約4分。

最寄り駅から大学までのアクセス
 ○阪急六甲駅から山側へ徒歩約15分。
 ○阪急六甲、JR六甲道、阪神御影各駅から市バス36系統鶴甲団地行乗車、六甲台南口下車、山側へ徒歩約5分。

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

神戸松蔭女子学院大学

教務課 TEL 078-882-6133

公式ホームページ URL <https://www.shoin.ac.jp>